

平成 28 年度 現代社会学部

自己点検評価報告書

－教育研究活動の実績－

1. 概要
2. 概況
3. 教養教育
4. 語学教育
5. 専門教育
6. 留学生教育
7. 教育改善・FD 活動
8. 学生生活・生活支援
9. キャリア支援
10. 国際交流
11. 地域交流・地域貢献
12. 入試対策
13. ホームページ、広報活動
14. 研究活動
15. 文部科学省平成 28 年度認定事業「地(知)の拠点大学」
16. 後援会・保護者対応
17. 富山国際大学アクションプラン（2014—2017）総括

平成 29 年 3 月

富山国際大学 現代社会学部

1. 概要

1. 実績・現状

(1) 本学の理念、学部教育目標の達成

富山国際大学は「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会および地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。平成 20 年度より発足した現代社会学部の教育目標は、「これからの 21 世紀を支える、国際的センスを持った、地域に精通し、かつ 常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成する」ことである。

地域のグローバル化に対応できる人材の育成に貢献するため、観光専攻、環境デザイン専攻、経営情報専攻の 3 専攻を設置している。それぞれの専門教育を通して、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指して教育研究活動を実施している。

平成 24 年度よりカリキュラム改訂を行い、社会人基礎力の強化、地域との連携を深めるための専門分野を通して地域との連携を深めるための実習授業やアクティブ・ラーニング手法を用いて教育効果を高めることを強化してきた。

また、平成 26 年度より 3 か年計画で富山国際大学アクションプラン（アクションプラン 2014-2016）を策定し、一層の教育の充実に努めている。しかしながら、18 歳人口の減少など、学部を取り巻く環境は厳しく、平成 25 年～平成 29 年度入学生までの定員充足率は 87.7%（120 名定員）であることから入学者増員対策が急務となっている。

平成 27 年度末に策定した、現代社会学部将来計画の英語教員養成、国際大学連携協定などの検討を行い、グローバル人材育成の強化や副専攻プログラムの開始など実施している。

(2) 分野別特徴

a. 教養教育

本学の教育理念・目標に沿い、共存・共生のアプローチ科目（社会生活基礎科目・社会理解基礎科目）、時代の潮流へのアプローチ科目（情報化対応科目・国際化対応科目）、キャリア・実務科目、教養演習科目を開講している。自校教育についても 2 回実施し、学生たちの大学に対するブランディング意識を高めることに努めた。教養ゼミ担当教員によるアカデミックアドバイザー会議を月 1 回程度開催し、ゼミ生とゼミ運営について情報交換を行っている。

b. 語学教育

国際人としての能力の向上を目指すため、「基礎英語」の必修化と東アジア地域での国際活動に必要な「中国語」「韓国語」「ロシア語」に「フランス語」を加え、「実践英語」のいずれかを選択必修としている。海外協定校への交換留学（長期留学）、語学研修（短期留学）を強く奨励している。

c. 専門教育

「基礎科目」「地域づくり科目」「国際交流科目」からなる学部共通科目と、観光・環境デザイン・経営情報の専攻ごとの専攻科目を学び、それぞれの専門分野で活躍できる能力を身につけさせる。本学部の特色ある教育である専攻ごとの「実習」を必修科目としている。地域の施設・企業などの現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、専攻教育の理解を深めている。

専門教育の総まとめである卒業研究論文の作成では、卒業論文要旨集 1 を発刊した。

d.留学生教育

平成 28 年度は学部留学生、交換留学生、外国人研究生、合計 64 名が在学している。日本語教育はプレースメントテストの成績によりクラス分けしている。学部留学生は全員卒業までに日本語能力検定試験で N 1 合格を目指している。授業外では、日本の地域社会と触れあう体験活動を約 10 回実施した。

e.教育改善・FD活動

学部学務委員会、学部FD委員会が中心となり教育改善・FD活動を推進した。FDワークショップを2回、FD研修会を2回開催した。ほぼ全教員が参加し、自らの授業改善に取り組むヒントを得た。今後の課題は、カリキュラム体系の見直しやFD活動の活発化である。

f.学生活動・生活支援

学生主体の大学づくりに向けた取り組みを推進した。新入生オリエンテーション、スポーツ文化交流会、大学祭等の改革・改善に向け、学友会・大学祭実行委員会を中心とした学生と学務委員会を中心とした教職員が話し合いを重ねた。

g.キャリア支援

キャリア科目として、1年生必修の「キャリア・デザイン講座」、3年生必修の「キャリア支援講座」を開講している。教養演習（1年、2年）では、SPI演習を導入した。インターンシップはこれまでの夏季に加え、2月から3月にかけても実施した。また、海外インターンシップ先の開拓に注力した。公務員・金融・国際関係企業希望者に対する対策プロジェクトを立ち上げた。公務員希望者に対しては、新しく講座を開設する準備を進め、平成 26 年度より開講している。平成 28 年度就職率は 100%(80 名)であった。

h.国際交流

留学生への学習・生活指導、海外協定校との連携による海外研修・留学プログラムを、国際交流センター委員が担当職員と協力し実施している。その実績・現状をまとめた。勉学意欲の高い学部留学生の確保が課題である。

i.地域交流・地域貢献

主に本学園サテライト・オフィス「地域交流センター」で実施している、エクステンション・カレッジ及び同プレビュー講座により、地域貢献を行っている。今後の課題としては新規受講生の開拓と新たなプログラムの開発があげられる。

j.入試対策

平成 29 年度入試の結果、編入学 8 名を含めて総計 113 名の入学者が確定した。入試種別、高校別入学者数を分析し、来年度入試に向けての対策を策定した。取り組める課題から早急に実施している。

k.HP・広報活動

大学ホームページによる広報活動の実績（アクセス件数等）、大学に関連する新聞記事等の掲載実績をまとめた。学部の活動状況を広く社会に広報するために、大学の特徴ある授業、大学のイベント、学生の活動、教員の社会活動や研究などに関して積極的に報道機関に取材依頼している。

1.研究活動

教員による学会発表、論文発表を集計した。紀要論文は多くの教員が執筆した。締切が厳守されなかった。紀要論文提出時期の見直しと周知徹底が課題である。競争的資金等による採択研究の実績を集計した。科研費採択数がゼロであり研究環境の整備が必要である。

m.大学・学部の戦略・運営に関する検討

学長室スタッフ会議で検討されている課題は大学のデータベースを構築してその活用法について方針を決め推進することである。また、29年度に向けグローバル人材育成の充実について検討した。

n.後援会・保護者対応

後援会理事会・後援会総会、保護者懇談会（3回）を開催した。後援会総会や保護者懇談会に出席される保護者の方を増やすことが課題である。

o.出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動

出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動状況をまとめた。授業および学内業務優先を原則として、適切に対応することが大切である。

2.課題

（1）入学定員の確保

入学者数が入学定員を確保できていない現実に危機感を持ち、その危機感を共有することが必要である。定員確保するためには入試業務担当者だけではなく、すべての部署で教職員が本学部の質的向上に、より一層努力する。平成29年度入学者数は編入者を加えて113名となったが、いまだ定員に対して90%の充足率であった。

（2）魅力ある授業の実現

入学時学力および勉学意欲に大きな差がある学生に対して、等しく理解できる授業をすることは大変困難であるが、授業改善を継続し魅力的な授業の実現に努力する。FD活動などを通して効果的な教育方法の開発、共有を進める。

（3）グローバル人材育成のための海外体験教育の促進

昨年度に比べて、大幅に海外体験希望者が増加する傾向にあり、今後は協定校を増やし多くの国や都市への留学者、異文化研修生を増やすことが必要である。

（４）高い進路（就職）実績の達成

卒業生全員の進路、特に就職希望者全員の就職を第一に達成する。次に第一志望の進路に進める卒業生を増加させる。公務員講座は合格率の向上を目指して、効果的な取り組みを検討し推進する。

2. 概況

1. 実績・現状

(1) 学生の状況

1) 在学者数(平成 29 年 3 月 31 日現在)

学年	総数	男女別				県内外別							
		男性		女性		富山県内				県外・海外			
			比率		比率	男性	女性	計	比率	男性	女性	計	比率
1年生	93	58	62.4%	35	37.6%	48	23	71	76.3%	10	12	22	23.7%
2年生	114	82	71.9%	32	28.1%	73	30	103	90.4%	9	2	11	9.6%
3年生	113	76	67.3%	37	32.7%	65	20	85	75.2%	11	17	28	24.8%
4年生	90	61	67.8%	29	32.2%	40	17	57	63.3%	21	12	33	36.7%
合計	410	277	67.6%	133	32.4%	226	90	316	77.1%	51	43	94	22.9%

※休学者数を含む

2) 県外学生の出身地 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

府県	1年	2年	3年	4年	計	府県	1年	2年	3年	4年	計
北海道	1				1	愛知		1			1
秋田	2		2	3	7	大阪		2			2
福島				1	1	京都	1	2		1	4
山形	1				1	兵庫			1	2	3
千葉			1		1	愛媛				1	1
新潟			2		2	佐賀	1			1	2
石川	2			4	6	長崎	3	1	1	1	6
福井			1	1	2	大分	1				1
山梨		1			1	宮崎	4			1	5
岐阜		1		1	2	鹿児島		1			1
計						計	16	9	8	17	50

3) 海外学生の出身地 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

国名	1年	2年	3年	4年	計
中国	5	3	18	14	40
韓国	1	1			2
ネパール				2	2
計	6	4	18	16	44

(2) 教職員

1) 教員組織 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

区 分	人 数	内 訳
現代社会学部専任教員	21名	教授13 准教授7 講師1
現代社会学部客員教授	3名	
現代社会学部客員准教授	1名	
学園内兼任講師	4名	子ども育成学部4
学園外兼任講師	16名	
計	45名	

2) 事務職員（平成 29 年 3 月 31 日現在、東黒牧キャンパス）

区 分	人 数	内 訳
専任事務職員	20名	部長1 参事1 課長4 係長3 主査5 主事3 主事補1 運転手1 コーディネーター1
契約職員	9名	職員9
計	29名	

3. 教養教育

1. 実績・現状

(1) 教養授業

- 1) 教養科目として、①「社会生活基礎科目」7科目、②「社会理解基礎科目」7科目、③「情報化対応科目」2科目、④「外国語科目」18科目、⑤「日本語科目」10科目、⑥「キャリア・実務科目」9科目、⑦「教養演習科目」4科目を開講した。①、②、④、⑥については前年度より開講科目を増やし、充実を図った。昨年課題として挙げられた「国際関係に関する授業の充実」については、国際的な話題を取り上げ英語で行う授業なども追加され、着実に充実に向けての努力がなされている。
- 2) 授業評価アンケート結果における学生による「総合評価」ポイントは、5点満点中、ほとんどが4点台で、4点台後半となっている科目も多い。

(2) 教養ゼミ

- 1) 合同の教養演習Ⅰ（1年ゼミ）において、前期に「eポートフォリオ・図書館利用法」、「健康教育・大学生活のためのツールブック利用法」、「SPI・Webテスト」を、後期に「北日本新聞連携講座」、「SPI基礎講座」を実施。前期の「SPI・Webテスト」の結果は、本人およびゼミ担当教員に伝えられ、それ以降の学習や指導の参考とされた。
- 2) 教養演習Ⅱ（2年ゼミ）において、30分程度の時間を充てて15回にわたりSPIの問題演習を実施。さらに、SPIについては、合同教養演習において就職試験プレテストとして年4回（6月7日、7月5日、11月8日、1月17日）、2年生全員による模擬試験を行った。
- 3) 大学祭時に、教養演習Ⅰと教養演習Ⅱの教育内容を紹介する展示室を設けた。

(3) 教育指導

- 1) 1年、2年ゼミ担当者において、アカデミック・アドバイザー連絡会議を月1回程度実施し、ゼミ生とゼミ運営の方法等について、定期的な情報交換を行うとともに、個別的な配慮や指導を要する学生についての指導体制を考えた。
- 2) ゼミ担当教員は、ゼミ生の授業への出欠状況を把握した上で、問題を抱えている学生については適宜アドバイスを行っている。
- 3) 保護者との連携として、ゼミ担当教員による成績表コメントの送付、年2回の個別保護者懇談会を実施した。

＊ なお、本年度における退学者は、1年生は2名（退学率2.1%）、2年生は3名（退学率2.6%）と、ほぼ昨年度と同水準である（2017年3月31日現在）。

2. 今後の課題（一部、昨年度課題とされ、今年度改善されたものを含む。）

(1) 教養授業

- 1) 授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善（毎年継続的に行う必要あり。）
- 2) ディプロマ・ポリシーや他の授業科目との関連を意識した授業内容の工夫。

【改善できた点】

- ① 昨年課題とされた「2年生に対するキャリア関連の授業や講座」への対応として、新年度から、新たに2年次必修のキャリア科目を新設することとした。1年から3年までの正課

科目の上で「切れ目のないキャリア形成支援」を実施する。

② 同じく新年度からリメディアル教育についても実施することとした。

(2) 教養ゼミ

- 1) 学生の論文作成能力、プレゼンテーション能力の一層の涵養。
- 2) 問題等を抱えた学生や奨学金対象者で GPA の低い学生に対する、アカデミック・アドバイザー連絡協議会と授業担当者、保健管理センターとの連携対応。
- 3) e ポートフォリオと「ツールブック」の利活用のさらなる可能性の検討。
- 4) 「より良いゼミ運営」を目指すための様々な情報交換を通じた教員同士の研鑽。

(3) 教育指導

- 1) 学生に長期留学を促す方法、留学前・留学中の学生に対する指導方法の検討。

【新規の取組み】 次年度新たなリメディアル教育プログラムを導入することを決定。

4. 語学教育

1. 実績・現状

(1) 英語

- 1) 平成 28 年度の基礎英語 I または基礎英語 II (1 年(前・後)・必修科目) はプレースメントテストを行った。能力別のクラスを作り、原則として前期と後期クラスは変わらないようにし、それぞれ 6 クラスで授業を行った。専任教員 2 名(秦野教授、パブリー講師)と非常勤講師 3 名がそのクラスを担当した。多くの学生が自分の英語力のレベルにふさわしい授業内容・英語練習などを受けた。
- 2) 実践英語 I・II (1 年(通年)・選択必修科目) は非常勤講師(アメリカ出身)が担当し、新科目の外国語特講(英語) I・II (2 年(通年)・選択科目) は非常勤講師(オーストラリア出身)が担当した。
観光英語(3 年(前)・選択科目)とビジネス英語(3 年(前)・選択科目)を専任教員 2 名がそれぞれ担当した。Oral Communication(3 年(前)・選択科目)の授業を非常勤講師(オーストラリア出身)が担当した。
- 3) 授業外の英語勉強のために、English Café を開き、その利用者が英語力を伸ばした。学生が English Café を訪れ、英語ネイティブスピーカーと日常会話をした。会話のテーマは、日本に住んでいる外国人は彼らの現在日本の生活・富山の印象などについての話が多かった。更に、ゲームをしたり、留学・異文化の経験について話し合ったり、英語での映画を見たりして、English Café は国際交流場所となった。2016 年 4 月 25 日 ~2017 年 2 月 8 日の間の利用者数：550 人。
- 4) 8 月に異文化研修プログラムで学生 7 名(教員付添い)が、オーストラリアのサザン・クロス大学(SCU)で英語・オーストラリア文化の研修を行い、異文化研修について、2016 年度国際交流フェスティバルでその経験についてプレゼンテーションをした。

(2) 中国語

1) 中国語

①履修者数および成績評価結果

項目	人数(人)	割合(%)	備考
履修学生数	58	100%	
期末試験受験者数	58	100%	
合格者数	58	100%	(内 3 名が再テストで合格)
不合格者数	0	0%	

②成績評価基準

- ・シラバスに記述した方針(出席点 20%、受講態度 20%、課題 30%、期末テスト 30%)で成績評価(素点)を実施。

③授業の成果と問題

- ・大多数の受講生が中国語の授業は楽しかったという声があった。授業の出席率が例年より良く、勉強意欲も例年の学生より高かった。教員と学生とのコミュニケーションもよく取れる状態だった。授業アンケート分析によると履修者の 80%以上は、中国語授業を受けて満足したという答えであった。多数の履修者は中国語と中国文化に興味を持つ

ようになったということが分かった。

- ・中国文化、事情に対する理解と認識度も、言葉を勉強すると同時に高められた。中国文化の導入があったため、一層中国語の勉強に興味を持たせることができた。
- ・授業は発音・声調、朗読、短文のつくり、簡単な会話に重点を置き、一人ひとりにきめ細かな指導を行った。また履修者同士の参加型授業、グループワークもよく取り入れ、学生に作業時間を与えることを心がけた。

2) 外国語特講中国語

①履修者数および成績評価結果

項目	人数 (人)	割合 (%)	備考
履修学生数	10	100%	
期末試験受験者数	9	90%	1 名長期留学 (2 年生)
合格者数	9	100%	(受験者全員合格)
不合格者数	0	0%	

②成績評価基準

- ・シラバスに記述した方針 (課題 30%、期末テスト 30%、授業態度 20%、出席 20%などで総合的に評価する。)

③到達目標

- 1: 中国語の基礎文法を正しく応用ができる。
- 2: 中国人と日常的な会話ができる。
- 3: 辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳もできるようにと目指すこと。

④授業の成果と問題

- ・授業を通して、到達目標の①はクリアできたが、②に関しては今一步努力が必要である。
- ・辞書を参考しながら翻訳は少しずつ進歩したが、通訳はまだまだな状態である。
- ・言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情も触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。
- ・少人数の授業なので、一人ひとりにきめ細かな指導が行われた。また履修者同士の参加型授業、留学生との交流なども導入した。授業中学生に作業時間を与えるのを心がけた。

3) 観光中国語

①履修者数および成績評価結果

項目	人数 (人)	割合 (%)	備考
履修学生数	8	100%	
期末試験受験者数	8	100%	
合格者数	8	100%	(内 1 名が再テストで合格)
不合格者数	0	0%	

②成績評価基準

- ・シラバスに記述した方針 (課題 30%、期末テスト 30%、授業態度 20%、出席 20%などで総合的に評価する。)

③到達目標

- 1：中国語の基礎文法を正しく応用ができる。
- 2：中国人と日常的な会話ができる。
- 3：辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳もできるようにと目指すこと。

④授業の成果と問題

- ・ 到達目標の①に関しては殆どクリアできたが、②に関しては、達成するまでに今一步努力が必要である。③に関しては、基礎的なもの、簡単な程度ぐらいいは問題がないけれども、やや難易度の高いものに対しては、無理がある。
- ・ 言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情も触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。
- ・ 受講生の中に中国人留学生も二人いるので、授業中日本人学生と一緒に交流したり、会話練習をしたりして、チューターの役割もうまく果たされた。
- ・ 学生が参加型の授業なので、グループワークが良く行われた。

(3) 韓国語

- 1) 韓国語は平成 24 年度入学生から選択必修科目となり、同時に週 2 回の開講となった。平成 28 年度「韓国語Ⅰ」(履修登録者 15 名。単位取得者 13 名)では、ハングルと発音の習得、続いて会話練習を織り込みながら初級文法を学習した。「韓国語Ⅱ」(履修登録者 12 名。単位取得者 10 名)では、「韓国語Ⅰ」で学習した内容を復習した後、過去形や仮定形、推量など基礎的文法事項を学習した。
- 2) シラバスで「韓国語Ⅰ」の到達目標に掲げた、ハングルの仕組みを覚え、読み書きでき、簡単な自己紹介ができるレベルは受講生の 9 割は到達できたとみている。「韓国語Ⅱ」の到達目標に掲げた基本的な文法事項をマスターし、簡単な会話ができるレベルに到達した学生は、これまで比べ多かった。
- 3) 中級以上の韓国語授業が開講されていないので、本格的な韓国語学習は協定校への留学を勧めている。平成 28 年度は韓国語履修者中、「異文化研修(韓国)」に 2 名参加した。研修中、長期の韓国留学に意欲をみせる学生も現れたが、実現するに至らなかった。

(4) ロシア語

- 1) ロシア語を初めて学ぶ学生を対象に、やさしく、楽しい授業を展開し、基本的なことを繰り返すことによって、ロシア語の文字、発音、基本的な会話表現、文法を学び、ロシア社会の初歩的な知識も学ぶことができた。
- 2) ロシア語の基礎知識を得て、挨拶などの実用的な表現を覚えた。ロシア社会の初歩的な知識も学び、ロシア文化について学ぶことができた。2016 年から外国語特講(ロシア語)を開講したので、学生が 2 年連続でロシア語を勉強し、ロシア語のレベルを上達できた。
- 3) 2016 年に現代社会部の学生がはじめてロシアに協定大学に長期留学をした。

項目	人数（人）	備考
ロシア語Ⅰ 前期 ロシア語Ⅱ 後期	4名 5名	履修登録せずに受講する学生（1名）がいた。その受講者が第10回富山県ロシア語スピーチコンテストのエッセイ部門で「私の趣味は海外へ行くことです」というテーマで1位を取った。
外国語特講（ロシア語）Ⅰ 前期 外国語特講（ロシア語）Ⅱ 後期	5名 6名	受講者2名は第10回富山県ロシア語スピーチコンテストに参加し、1名はスピーチ部門で3位を取り、1名はエッセイ部門で3位を取った。
合格者数	19名	
不合格者数	なし	

（5）フランス語

- 1）平成28年度より新たに開講した授業科目である。
- 2）受講生12名（なお前期の授業には留学予定の学生2名が聴講した）のうち、単位取得学生12名。
- 3）学生の授業の出席状況は皆勤だった。
- 4）毎回授業開始時に小テストを実施し、前回授業内容の理解度を確認した。
- 5）授業では、テキスト以外にシャンソンを聴く、フランス国内各地のDVDの視聴、フランス製品の説明書きを読むなどして、授業が単調にならないような工夫を図った。

2. 課題

（1）英語

- ・平成28年度は、より低いレベルのクラスに入るために、クラス分けテストをわざと悪く書いた学生がいることがわかった。平成29年度プレースメントテストの前の説明を改善することが必要である。
- ・学生にTOEIC、TOEFLなどの英語検定に興味を持たせ、その検定での点数を上げるための方策を検討していくことが必要である。

（2）中国語

1）中国語

- ・単位だけがほしい学生の勉強意欲が低いことにより、こっそり携帯をいじったりする現象もあった。
- ・プリント、宿題を期日通りに提出しない学生もしばしば現れた。時々、授業中少数の学生のために補習や復習を行う必要が生じ、全体の授業の進度に支障が出ることもあった。
- ・興味を持ってもらうだけではなくクラス全体の学生の勉強意欲、主体的に学ぶことを引き出すことができるような授業の方法を工夫しなければならない。（例えばまず楽しい、生き生きとした授業雰囲気を作ったり、学生の能動性が目いっぱい生かせることなどを工夫する。）
- ・中国語検定試験向けの練習指導を強化しなければならない。一人でも多くの受験者が現れるように努力したい。

- ・チューター制度をもっと有効的に活用し、中国語の履修者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。
- ・定期的に中国人留学生との交流や会話練習もこれから導入したい。

2) 外国語特講中国語

- ・昨年と同じく教室での勉強が中心だったが、今後は実践練習として、観光地現場での勉強と練習を兼ねた会話に取り組みたいと思う。
- ・興味を持ってもらうだけでなく、学生が主体的に活躍できる授業の形態になるための工夫をしなければならないと考えている。
- ・大学のチューター制度をもっと有効的に活用し、学習者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。

3) 観光中国語

- ・教室での勉強が中心だったが、今後は実践練習として、観光地現場での勉強と練習を兼ねた会話に取り組みたいと思う。
- ・興味を持ってもらうだけでなく、学習意欲を高め、勉強成果がもっと上げられるように工夫をしなければならない。
- ・チューター制度をもっと有効的に活用し、履修者との交流や会話練習などを授業の一環として更に強化したい。

(3) 韓国語

- ・ほとんどの受講生が初めて韓国語を学習するので、スタートラインは同じなのだが、前期終了時点では、学生ごとに顕著な理解度の差ができてしまう。これを解消すべく、授業方法の工夫を重ねている。平成26年度より自宅学習を促すため、一週間に1回程度復習用の学習プリントを配布、翌週の授業で回収し点検している。
- ・また、平成28年度は韓国の協定校、聖公会大学からの交換留学生にチューターとして、韓国Ⅰ、韓国語Ⅱの授業に毎回参加してもらった。発音指導、会話練習、最近の韓国若者事情の情報提供など授業進行と理解促進に大きな助けとなった。
- ・アクティブ・ラーニング(グループワーク)の導入を継続的に進めている。小グループ内での発音練習、会話練習を多く取り入れた。
- ・平成29年度はグループ内でのコミュニケーションを活発化させる新たな方策を種々検討実施したい。

(4) ロシア語

- ・2015年に1年生でのロシア語を習った12名の内、2016年に2年生になってロシア語を勉強し続ける(外国語特講を受講する)学生が6名だけだった。勉強し続けるように対策を考える必要がある。

(5) フランス語

- ・授業外の復習時間が足りないと思われる学生が数名いた。テキストの録音音声、授業外にも活

用するように働きかける必要がある。

- 授業で学習した内容を活用できる場面を多く示してあげること。
- フランス事情を、より多面的に紹介すること。

5. 専門教育

5-1 観光専攻

1. 実績・現状

(1) 観光専攻の専攻科目（講義）

平成 28 年度の観光専攻の 1、2、3、4 年対象の講義科目（観光専攻専攻科目）は、22 科目開講され、専任教員 6 名と非常勤講師 3 名で担当した。

専攻科目の専任教員担当科目では、授業手法として AL 技法を活用したグループワーク等を使用しながら双方向の授業を行った。授業アンケート等でも、総合評価関する項目では、4 点以上（5 点満点）で評価は高い。

(2) 観光実習

1) 概要

<目的>

2016 年度の観光実習は、あいの風とやま鉄道、高岡市観光協会、小矢部市観光協会と連携し観光実習を行った。その目的は、「あいの風とやま鉄道」を利用した観光を推進するための鉄道の利用状況や沿線での観光への取り組み、「あいの風とやま鉄道」と他の公共交通機関や観光協会等との連携に関する実態調査を行い、これらをもとに沿線の観光振興と鉄道の利用促進に向けた提案を行うことであった。

<到達目標>

次の 4 点を達成目標とした。

- ①話を聞き、まとめる力の養成…ヒアリング等を通して、人の話を聞きながら課題を抽出・整理していく力を身につける。
- ②共に働く力の養成…他の学生との討議や現場の鉄道事業者や観光関連産業の方たちとの意見交換を通して、共に知恵を出し合いながら、一つのものを創り上げる力を身につける。
- ③企画・提案をする力の養成…観光や地域状況等の実態把握を行った後に、課題の解決方法や企画を提案する能力を身につける。

<実習内容>

上記目的を達成するために次のことを実施した。

- ①班編成ならびに実習の目的等の説明
- ②「あいの風とやま鉄道」の経営状況、沿線観光や沿線自治体との連携に関するレクチャーならびにレクチャー内容の整理と課題の洗い出し
- ③沿線観光地の魅力発見とその活用に関する検討
- ④他社鉄・軌道や路線バスとの接続、連携に関する課題の洗い出し
- ⑤「あいの風とやま鉄道」沿線の観光協会等にてヒアリング・意見交換
- ⑦ヒアリング結果の振り返りと次回ヒアリングに向けた準備
- ⑧「あいの風とやま鉄道」沿線における観光地づくりリーダー等へのヒアリング調査ならびに調査結果の整理、要点のまとめ
- ⑨最終報告会

<成果>

- ①高岡駅を中心に発表した「1 班 異文化・体験・交流」、「2 班 高岡～通勤利用者を観光

客と捉える～」福岡駅を中心に発表した「3班 福岡～福岡の伝統文化の継承～」、石動駅を中心に発表した「4班 義仲伝説を巡る旅」、「石動まちあるき～鉄道と商店街の利用増加に向けた提案～」の提案を行った。

②観光実習に参加した学生は、それぞれの地域でヒアリング調査、現地視察調査を行い、学生独自の発想で具体的な提案を行った。また、この発表会の内容は、新聞で報道された。

(3) 専門演習Ⅰ、Ⅱ

<卒業論文タイトル>

1. なめりかわ宿場回廊めぐりの観光利用に関する考察
2. 大沢野いちじくの現状と課題についての研究
3. スキー場の快適性向上に果たす音楽の役割
4. ブリ観光の現状と課題 ―富山・新潟・島根の比較―
5. 春の全国中学生ハンドボール選手権大会を中心とした氷見の地域振興
6. 観光資源としての立山博物館
7. 庄川と五箇山の広域連携に関する研究
8. よさこい祭りの光と影に関する研究―高知よさこい祭りを事例として―
9. 富山駅に付属するお土産物店に関する研究―とやマルシェを例にして―
10. フードツーリズムについて―菓膳料理を例として―
11. 上市町におけるスピリチュアル・ツーリズムの可能性と課題
12. 瑞龍寺を中心とした周辺観光の展開
―瑞龍寺来訪客へのアンケート分析を中心として―
13. 土産品としての鱈の寿司の動向と販売業者の動向に関する研究
14. 井波彫刻の認知度と魅力 ―観光客の視点から―
15. 映画のロケが地域の活性化に及ぼす効果 ―「人生の約束」新湊ロケを事例として―
16. 住民から見た観光資源の価値―南砺市城端を事例として―
17. 宿泊施設におけるインバウンドの対応とその課題
18. 白米千枚田の景観保全とその課題

専門演習Ⅰは5名の教員、専門演習Ⅱは3名の教員で担当した。教員別の学生数は次の通りである。

専門演習Ⅰ：佐藤（悦）教授4名、高橋（光）教授6名、湯教授3名、佐藤（勝）准教授5名
助重准教授6名

専門演習Ⅱ：佐藤（悦）教授6名、高橋（光）教授5名、助重准教授8名

4年次18名（1名は留年）は卒業論文を書き上げ、2017年2月10日に卒業論文発表会を行った。

2. 課題

①観光専攻の専攻科目

観光専攻の専攻科目の授業アンケート結果は、比較的高い評価点であるが、講義内容、教育手法に関しては、引き続き専攻内でも検討する必要がある。

②観光実習

観光実習は、グループワークが必要な授業である。学生の中には、グループワークが不得意な学生もいた。そのような学生の対応を今後検討する必要がある。

③専門演習、卒業論文指導

レベルの高い卒業論文を書かせるために、3年次からの指導が必要である。特に文献講読により知識を深め、またフィールドワークを行い、4年次の卒業研究につなげることが重要である。卒論指導においてもある程度教員間で最低限の作法（卒論の組み立て、引用箇所の明示等）を共有する必要がある。

また、観光専攻では、卒論書くにあたってフィールドワークを行うことを義務化した。

5. 専門教育

5-2 環境デザイン専攻

1. 実績と現状

(1) 新たな取り組み

6名の教員それぞれが持つ専門性を学生教育に生かし、特色ある教育を展開して学生の修学意欲を高めると共に教員の研究を促進することを目標に、28年度は以下の新しい取り組みを行った。

- ① 平成27年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」において、富山国際大学は「地（知）の拠点大学」に認定された事を受け、地域連携を実践する教育内容を充実した（環境デザイン実習、卒業研究、環境政策論など）
- ② タイ北部ナーン県の無電化農村において、ボランティア活動としての文化センター建設とおして3週間の現地体験を行わせる実習（平成26年度からの継続）は、28年度は8月と2月の2回にわたり実施し活動の現地定着を図った。

(2) 環境デザイン実習

環境デザイン実習において森林調査と臨海実習を実施するにあたり、従来は後期に実施していたが実習内容としては夏季の実施が望ましく、今年度は7月に前倒しして実施した。特に臨海実習については全員参加とし、8月に2日間の集中実習を実施した。この経験をベースに、次年度から実習を前期に組み込む方針とした。

- ・ 環境デザイン専攻実習（7月29日：桐谷における森の健康診断）
- ・ 環境デザイン専攻実習（8月17～18日、8月21～22日：臨海実習）

① 森の健康診断

実習日：平成28年7月29日（金）9：00～17：00

実習場所：富山県八尾町桐谷地区

参加者：環境デザイン専攻の3年生40名＋4年生6名＋教員6名

参加費：特になし

協力者：桐谷地区の皆さん、NPO法人アイ・フィール・ファイン（代表：長谷川由美さん）

② 臨海実習

実習日：第1回目：2016年8月17日（水）-18日（木）参加学生21名、教員3名

第2回目：2016年8月21日（日）-22日（火）参加学生19名、教員3名

場所：金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設

〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木 ☎0768-74-1151

実習内容：磯採集、海の生物のスケッチ、イカの解剖、乗船実習、ウニの発生の観察

事前オリエンテーション：7月15日（金）午後（3限または4限）

(3) 専門演習Ⅰと専門演習Ⅱ（卒業研究）

専門演習Ⅰ、Ⅱともに環境デザイン専攻の教員6名全員で学生を担当した。教員別の学生数は以下のとおりである。

専門演習Ⅰ：上坂教授（9名）、尾畑教授（7名）、大谷教授（8名）、川本教授（10名）、才田教授（5名）、高橋准教授（5名）

専門演習Ⅱ；上坂教授（6名）、尾畑教授（6名）、大谷教授（6名）、川本教授（4名）、
才田教授（5名）、高橋准教授（6名）

COC+拠点大学としての認定を受けて、環境デザイン実習と同様に卒業研究も「地域指向科目」としての性格を強調した内容とした。具体的には学生が積極的に学外に出向き、学外地域における課題発見とその解決策提案、および関与結果についての研究的側面を追及するべくテーマ選択を行った。その結果、全 32 件の卒研テーマ中 12 件（37.5%）を地域課題解決型の卒業研究とすることができた。

- ・専攻ゼミ生による中間発表会の実施（7月28日実施）
- ・卒論発表会（平成28年2月7日実施）テーマ31件、要旨集作成（1件A4判1ページ）

氏名	テーマ	地域連携
王飛飛	中国農村におけるエネルギー利用と持続性 ～吉林省四平市東八大村における実態調査～	
上田佑亮	外食産業における「食品ロス」問題	
麻生信吾	リサイクルの現状と課題	
張文唐	住宅におけるコミュニケーション空間の取り入れ方に関する研究 －第22回北陸の家づくり」設計コンペ作品の分析－	
影山宏次郎	桐谷ガットでの水の細菌汚染	桐谷地区
大石修平	富山の名水 ～「穴の谷」をめぐる歴史と物語～	穴の谷
佐々木昂大	環境に優しい洗浄研究	
丁治源	住宅面積の地域特性に関する研究－富山の地域特性の分析	
大竹美佳	ガット出の水浄化法の検討	桐谷地区
黒田大	現代社会における若者の日本酒離れについて	
曹禺	宇奈月谷小水力発電所におけるターゴインパルス水車の発電効率評価に関する研究	宇奈月
清水由佳	圃場における土壌分析 ～桑原地区における残留肥料～	桑原地区
笹岡陸斗	積雪量の変化がスキー場に及ぼす影響 －立山山麓スキー場を例として－	立山町
藤孝偉	八尾町桐谷地区における太陽光発電の可能性に関する研究	桐谷地区
片岡要	プロスポーツによる地域の活性化 ～富山グラウジーズの現状及び課題～	
董雪	住宅面積と家族特性の関連性に関する研究 －富山の地域特性の分析－	
中澤拓未	八尾町桐谷地区の空家に関する研究	桐谷地区
信川奈々恵	大学生の居住空間における空気中真菌の実態調査	
古井稔生	八尾町桐谷地区における人工林バイオマスエネルギーの利用可能量予測に関する研究	桐谷地区
菊地諒今	聞き書き手法による「その人らしさ」の表現	

舘川史奈	色彩が食品のおいしさに与える影響	
金井桜	とやまの名水、飲料用としての適性	
馬利波	富山県における主要な大気汚染物質の経年変化	
Hashina Rajbahak	黒部市音谷川の流量調査と小水力発電を核とした地域活性化の可能性	音谷 (黒部市)
安吉恵照	スポーツ選手の倫理教育 ～近年のスポーツ選手の不祥事多発を受けて～	
忠田孝一	ポイ捨ての実態と防止対策	
李剛	保育園及び幼稚園における室内外空気中のカビによる子どもへの健康影響評価	
Rokka Rasmila	八尾町桐谷における旧簡易水道を利用した小水力発電システムのデザイン	桐谷地区
杉本健太	スポーツ障害イップスの克服法	
中野宏平	歴史的視点から見たいち川	石倉町 (富山市)
横山舞華	木質ペレットの活用について	

(4) 学生による地域連携研究およびボランティア活動

- ・ G7 富山環境大臣会合に合わせて実施したアースデイイベントにおいて、電気バス EMU の運行に同上して市内を案内（学生延 4 名参加）
- ・ とやま環境フェアでのボランティア活動（学生延 10 名参加）
- ・ 28 年度の全国植樹祭に向けたキックオフイベントとして、とやまの森づくりボランティア交流会が開催され、本学にて広葉樹の苗木を植林（環境サークルの学生 15 名参加）
- ・ オスカーホームとの協働による森づくり活動（環境サークルの学生延 20 名参加）

(5) その他

①ゼミ教員による学生指導

- ・ エコ検定合格をめざした全教員による受験講座を実施（エコ検定合格 8 名）
- ・ 日本財団主催のうみぼすワークショップに専攻 3 年が参加。環境デザイン専攻の学生 2 名が入賞（森野義礼君、佐藤廉君）

②支援を要する学生への対応

- ・ 卒業が遅れている 1 名の学生への対応（29 年度 9 月に卒業予定）

③グローバル化対応

- ・ ボランティアの外部講師（タイ語専門家）と留学希望学生を中心とした、タイ語修得の自主活動（学生 8 名参加）

2. 課題

(1) 環境デザイン専攻の高校向け特色と魅力の明確化

平成 27 年度に検討した環境デザイン専攻の人材教育方針では、国際ビジネスも視野にいたした実践指向の教育を実行するとした。しかし COC+地（知）の拠点大学としての認定を受けた事

により全学的に地域指向の教育体制確立に傾注することとなり、28年度は実習科目の構成変更や副専攻プログラムの構築などを優先せざるを得ない状況となった。これによってまだ、環境デザイン専攻の特色の明確化についての結論は得られておらず、29年度に引き続き検討することとする。

(2) 学生の自発的興味を引き出す教育方法の開発

環境デザイン専攻生には部活動強化学生や留学生が多く、極めて多様な学生で構成される傾向があり、学習面だけから見ると学力のばらつきが大きいという現状がある。学力差を超えて、学生が自主的、意欲的に取り組める教育プログラムの開発が必要である。とりわけ実践力とグループワークを重視する環境デザイン実習においては題材の選び方によって教育効果の成否が大きく影響されるため、達成目標への動機づけと効果的な題材選びが重要となっている。平成28年度は実習時期を改善すると同時に臨海実習を取り入れて多様な興味を引き出すことに取り組んだ。ウニ卵の発生実験やイカの解剖など、普段は触れることの無い世界に触れて興味を持つ学生も多数みられた。一方で残念ながら学術的興味を示さない学生も多く、まだまだ改善の余地がある。7月に実施した桐谷での「森の健康診断」でも、森林の中での観察・計測作業などには積極的に取り組めるが、教室に持ち帰っての分析作業では学生によって積極性に大きな差が出ている。

学力レベルの高い学生でも満足でき、低い学生でも興味をもてるような題材選びとグループワークの進め方を見つけていく事が大きな課題である。

5. 専門教育

5-3 経営情報専攻

1. 実績・現状

(1) 「経営情報概論」テキストの改訂

平成 27 年度より初学者に経営情報専攻での学びをわかりやすく、またテキストでの予習復習を通してより深く教授することを目的として、本専攻オリジナルテキストを作成している。平成 28 年度も内容を改訂し受講生に配布した。作成にあたっては経営情報専攻所属教員全員で取り組み、各教員の専門分野と「経営情報概論」で初学者に教育すべき内容のすり合わせを行った。

初学者にとって、「経営情報」の学習内容は多岐にわたり、全体像がつかみにくいという傾向が見られる。平成 28 年度「経営情報概論」テキストでは、経営情報におけるさまざまな学びを系統建てて概要として示し、経営情報の全体象から各自が特に興味を待った分野へと、今後の更なる専門的学びにむけて自らの方向性を見出す一助となることを目指した。

期末に行った授業アンケートにおいて、「経営情報概論」の総合評価が、平成 28 年度は 4.03 となり、平成 27 年度の 4.13 から 0.1 ポイント低下した。授業アンケート結果を分析すると「内容が難しい」との意見が多かった。平成 29 年度は学生満足度の高い講義を目指し、それをサポートするテキストを作成する。

(2) 専門演習

専門演習Ⅰは6名、専門演習Ⅱは7名の教員が担当した。教員別の学生数は下記の通りである。

専門演習Ⅰ：大西教授8名、高橋（哲）教授8名、長尾教授9名、佐藤（綾）准教授7名、後藤准教授3名、小西准教授10名、計45名（内、3年次編入の秋季入学生3名が含まれている）の学生がそれぞれの研究室で専攻分野の学びを深めた。

このほか、海外協定校（中国、大連海洋大学、韓国、聖公会大学）からの交換留学生6名（大西ゼミ2名、高橋（哲）ゼミ1名、佐藤（綾）ゼミ1名、後藤ゼミ1名、小西ゼミ1名）が専門演習Ⅰで1年間学んだ。

専門演習Ⅱ：大西教授6名、高橋（哲）教授4名、長尾教授5名、村瀬教授5名、佐藤（綾）准教授7名、後藤准教授4名、小西准教授5名、合計36名だった（（内、平成26年度後期3年次編入の秋季入学生2名が含まれている）。それぞれの研究室で卒業研究に取り組み、全員が卒業論文を提出し学位（学士）を取得した。

(3) 経営情報実習

1) 実習概要

これまでに学んだ経営情報に関する専門知識を、企業における実習を通して、より実践的な知識にブラッシュアップすることを目的に行なわれた。併せて、課題解決力、コミュニケーション力、チームワーク力を醸成することを目的とした。対象学年は3年で専攻必修科目である。

実習先は昨年度に引き続き株式会社まちづくりとやまと株式会社ジャパン・フラワー・コーポレーション（花まつ）との2社である。実習は、平成28年10月～平成29年1月に15回実施した。

2) 実習の方法

4か月間、毎週木曜午後に学外での実習（「長期インターンシップ」）に取り組む。「(株)ジャパン・フラワー・コーポレーション（花まつ）」および「(株)まちづくりとやま」にて計44名受け入れていただき、8班（5～6名のグループ）がそれぞれ個別テーマに取り組んだ。「まちづくりとやま」では①グランドプラザの活用策としてイベント（エコリンク）ニーズを把握するための調査・分析を行い、スタンプカードの配布等を提案した。②「地場もんや」での実習グループはセールスゲートの認知度アップ策を提案した。また、③富山市中心商店街の情報発信事業「なかもん」やシティウォーカー（マップ）掲載店舗の更新や④市内のデジタルサイネージ広告活用のためのPR策など、まちづくりの課題に取り組んだ。

「花まつ」での実習では、新規顧客獲得の「うち・はな」キャンペーンとして「あなたにプチリッチライフ」というキャッチコピーで主に20～40代の女性をターゲットに新規顧客の獲得を目指して活動した。実店舗でのチラシ配りやSNSを利用した情報発信を行った。

1月26日には成果発表会を開催。実習の成果は年々充実してきており、地元新聞社3社の取材を受け2社（1社は写真入り）にて取り上げていただいた。

1名「合理的配慮」を必要とする学生については、学外実習には参加させず、課題提出により単位を付与した。

3) 学生の評価

授業アンケートの結果は以下のとおり高い評価であった。

総合評価：4.4、学生の自己評価：4.3、目標の到達達成度：a(コミュニケーション力、チームワーク力、課題解決力などを向上させる)4.2、b(大学で学んだ知識を活用することを学ぶ)4.0、チューターの熱意：4.2、授業の雰囲気：4.3、実習場所の環境：4.4

学生へのアンケート結果から主な意見を抽出すると次の通りである。

①身についた能力という視点から

圧倒的に多かったのがコミュニケーション能力だった。これは、グループ作業を行なうことによってコミュニケーションをとらざるを得ない状況に追い込まれたということだと推察される。これに関連して、共同で作業する能力やチームワークといった能力も多く見られた。プレゼン資料作成能力や企画力という意見もあった。

②その他の意見として

「仕事というものを理解できた」、「社会人になっても学びが大切であることを学んだ」、「自分がどういった職業に就きたいか知ることができた」などのコメントが多かった。

4) 卒業研究

専門演習の集大成として、卒業研究発表会を平成29年2月10日（火）に実施し、34名が発表した。研究テーマは以下の通りである。

1. 「LINEの経営戦略」
2. 「不本意非正規労働者と雇用の流動性～トライアル雇用による再雇用政策～」
3. 「スポーツ集団におけるリーダーシップ－村井・猪俣氏の追試研究－」
4. 「道州制の考え方について」

5. 「日本の時計産業の課題と展望」
6. 「ファストファッション業界の経営戦略ーユニクロと ZARA の比較分析を中心にー」
7. 「中小企業の海外進出に関する現状と動向ーアジア進出を中心にー」
8. 「パチンコの三店方式の在り方に関する研究」
9. 「宅配便における再配達効率化に関する一考察」
10. 「プロ野球チームの経営戦略に関する研究ーチーム成績が与える影響についてー」
11. 「ベンジャミン・フランクリンに学ぶ経営者の視点」
12. 「日本のゲーム市場の発展と展望ーゲームのタイプ別棲み分けシナリオー」
13. 「ドラッグストアの経営戦略ースーパー・コンビニとの業態比較ー」
14. 「PB（プライベートブランド商品）の市場展開と戦略」
15. 「トヨタの海外事業展開」
16. 「スターバックスの経営戦略に関する研究」
17. 「日中貿易における関税政策の現状と課題ー自動車の貿易を事例にー」
18. 「100 円ショップの現状と課題」
19. 「コンビニエンスストアの経営戦略ーレジ周りの商品に焦点を当ててー」
20. 「広告業界の現状と今後の展望」
21. 「政務活動費のあり方に関する考察ー富山市議会の事例を中心としてー」
22. 「富山県における在宅医療の在り方」
23. 「富山市のまちづくりーコンパクトシティ政策の現状と今後ー」
24. 「女性の化粧品への意識・購買行動に関する調査研究」
25. 「出版不況の原因とその対応策」
26. 「日本人がいきいきと働くために必要な要素ー欧州との比較から学ぶー」
27. 「PB 開発と今後の課題」
28. 「アウトレットモールの経営戦略に関する研究
ー三井アウトレットパーク北陸小矢部が与えた影響」
29. 「Twitter などの SNS の人権侵害について」
30. 「SNS における情報拡散と炎上」
31. 「ガソリンスタンド経営の課題と展望」
32. 「自転車を通したまちづくり」
33. 「外食産業における食品のリスクマネジメントーマクドナルドの事例を中心にー」
34. 「中国の農産品における現状及び対応に関する一考察
ー日中間の農産品における非関税障壁を中心にー」

2. 課題

経営情報専攻の専門演習では学生の個別指導に力をいれている。その指導に応じて学外学修を含め、積極的に学習し行動する学生が増えている。過去には無気力な学生も存在したが大きく減った。しかし、種々の問題を抱える学生を担当した教員は多くの時間とエネルギーをその学生に費やさざるを得ない現状には変わりはない。学力あるいは精神的に問題を抱える学生もおり、実習や卒業研究での指導が困難な状況も見られた。これらについては、専攻教員間で情報交換をし

ながら全員で指導にあたる気持ちで取り組んできた。能力の面で学生に大きな差があることは確かだが、教育内容をさらに工夫し専攻学生全員の満足度を向上させていかなければならない。

また、専門演習での進路指導についても専攻会議で情報交換を行った。平成 28 年度も前年度に引き続き就職率 100%を達成した。金融機関、地元有力企業への就職が増加した。専攻での教育指導内容の成果の一部だと考えている。

経営情報専攻科目の講義については、学生の学力レベルの幅が広いが、中間層に照準を置いた講義になる傾向が見られる。中間層に照準を合わせながらも、上下の層にある程度満足のいく講義内容を今後も試行錯誤しながら行なっていくことが課題である。

また、アクティブ・ラーニングに関しては、取り組みが拡大・定着してきたが、さらに改善を加え、学習成果が高まる工夫を続けていくことが課題である。

6. 留学生教育

1. 留学生現状

(1) 総数

国別	中国	韓国	ネパール	タイ	ロシア	総数
学部留学生数	45 名	2 名	2 名			49 名
交換留学生数	7 名	1 名		1 名	1 名	10 名
外国人研究生	5 名					5 名

学年別

1 年	6 名
2 年	9 名
3 年	11 名+7 名 (2+2)
4 年	15 名+1 名 (2+2)

(2) 奨学金受給状況

名称	月額	人数
ロータリー米山記念奨学金	100,000 円	1 名
学習奨励費	48,000 円	1 名
朝日国際教育財団	25,000 円	5 名
富山県国際交流奨学金	50,000 円	4 名
富山県国際交流奨学金	10,000 円	1 名
大学独自の奨学金	20,000 円	35 名

(3) 宿舎別入居状況

大学が用意した留学生用宿舎 15 名（10 名は 2+2）、民間アパート 33 名、公営住宅 1 名

実績と課題

ほとんど本学の海外にある協定校から派遣してきた 5 カ国の約 64 名の留学生たちは、概ね安心で且つ充実な留学生活が送られている。その点においては、留学生派遣側からも評価を得ている。

留学生のうちに、自立性が弱いかつ日本語能力も低い学生が数名いた現象があるので、今後さらなるきめ細かな指導と温かく支援をし続けると同時に留学生の自立性を育てやるのも必要だと思う。

28 年度に退学 2 名、留年 2 名という現状から、年度によって留学生の質と日本語のレベルが大きな差があるのを認識している。これらを踏まえて、今後もいろいろな面での厳しい指導が求められると思う。

2. 日本語教育現状

留学生に早く日本での生活に慣れてもらい、大学の勉強についていけるように、そして将来国際社会に有用な人材になってもらうために、留学生に対して日本語の教育に力を入れてきた。1 年次入学時にプレースメントテストの成績によりクラス分けをして日本語の教育を行っていた。

①通常の日本語クラス

留学生を対象にした日本語のクラス

基礎日本語Ⅰ・Ⅱ（週2回）

実践日本語Ⅰ・Ⅱ（週2回）

上級日本語Ⅰ・Ⅱ（週1回）

日本語補習 前期週2回（中野、才田） 後期週4回（中野、才田、郭2回）

※後期は南通大学との教員交流制度で着任した郭客員准教授が、週2回の補習授業を担当することにより、前年度より充実した教育を行うことが出来た。

日本語総合（集中講義）

28 年度後期から、秋入学した留学生(2+2)数が増えたので、日本語の補習授業も週に4コマ増えた。

②通常の日本語補習の授業以外に、銭輝支援員・湯により日本語や生活などの指導を随時に行った。

実績と課題

新カリキュラムのシステム導入後、卒業までに日本語能力検定試験 1 級を取らないと卒業ができないという意識を今留学生の中で少しずつ持つようになった。各自が日本語の習熟度によって、自主的に検定試験を受けるようになった。昨年の 12 月までのテスト成績の把握状況は次の通り。

日本語能力検定試験各年の合格者数：

	総人数	N1	N2
1 年生	6	0	0
2 年生	9	2	4
3 年生	18	2	9
4 年生	16	1	10

卒業するまでになるべく日本語検定試験の 1 級に合格するという目標に達するまで、まだまだ距離があると認識している。これから、いかに留学生の日本語のレベルを高めるかが課題だと思う。そして専任と非常勤の日本語授業の担当者との緊密な連携、情報交換、授業改善に力を入れることは目下の急務であると認識した。

3. 留学生活動指導

毎月 2 回ぐらい、火、木曜日の午後 3:30～5:30 の時間帯に、留学生を対象とした銭輝支援員による特別教養演習を実施した。内容は、日本の文化、伝統、生活習慣、日本の礼儀作法など、強制ではなく、自由参加の形であるため、参加者人数が多い時と少ない時もあった。そのほかに、留学生の悩み、困ることについての相談、遵守すべき規律、守るべきルール等の指導とアドバイスも随時に行っている。

授業のほかになるべく日本の地域社会あるいは日本人との触れ合うことのできるチャンスを与えるため、下記の体験活動を実施しイベントへの参加を促した。（安全のために山崎・湯が殆ど同行した）

	行 事	期 日	場 所	参加人数 (留学生)
1	外国人留学生県内研修（富山市内お花見）	4 月 3 日（日）	富山市内	23
2	外国人留学生県内研修 （チューリップフェア会場 五箇山）	4 月 24 日（日）	砺波市	20
3	外国人留学生県内研修（立山 雪の大谷）	5 月 14 日（土）	中新川郡立山町	15
4	外国人留学生就職説明会	6 月 24 日（水）	富山国際大学	25
5	外国人留学生（巻き寿司体験）	7 月 19 日（火）	富山国際大学	19
6	外国人留学生「黒部峡谷異文化体験」	11 月 5 日（土）	黒部市	22
7	富山市国際交流フェスティバルへの参加	11 月 12 日（土）	富山市	20
8	留学生日本異文化体験発表会の開催	同上	富山市	4
9	富山国際大学留学生総会・懇談会	12 月 26 日（月）	富山国際大学	45

実績と課題

留学生が勉学以外に積極的に地域社会の活動、イベントに参加するようになりつつあるので、地域社会から一定の評価を受けていた。28 年度もいろいろなボランティア活動への参加により、日本の社会、日本人、日本事情を理解することに大いに役立った。

今後さらに充実した留学生生活を送れるよう、留学生一人ひとりに日本人と触れ合い、友人を作り、積極的にコミュニケーションが取れるように努力をしてもらいたい。卒業後に日本社会に乃至母国に貢献できる有用な人材になることを願っている。

7. 教育改善・FD活動

1. 実績・現状

(1) ホームページや電子掲示板の活用

- ・学内外に部活対外試合の結果、ボランティア活動、ゼミの学外活動といった学生の活躍ぶりを広報するため、ホームページの活用を促進した。
- ・学内においては、図書館等入口と厚生棟内に設置した大型液晶モニターを電子掲示板として活用し、授業の変更情報、大学からのお知らせとともに部活対外試合の結果等、学生の活躍ぶりを全学生に知らせるよう配意した。

(2) 優秀卒業論文の表彰

- ・卒業論文の質を高めるため、平成 26 年度より学位記授与式の際に各専攻の優秀卒業論文卒論 2 点、計 6 点のパネル展示を行うようにしたが、平成 27 年度からは優秀卒業論文に選ばれた学生を、学部の学位記授与式において学部長から表彰するようにした。平成 28 年度は以下の 6 名が表彰された。

氏名	専攻	論文題名
金子 日都美	観光	瑞龍寺を中心とした周辺観光の展開 ～瑞龍寺来訪客へのアンケート分析を中心として～
宮崎 春奈	観光	富山駅に付属するお土産物店に関する研究 ～とやマルシェを例にして～
清水 由佳	環境デザイン	圃場における土壌分析 ～桑原地区における残留肥料～
ラズバハク・ホシナ	環境デザイン	黒部市音谷川の流量調査と小水力発電を核とした地域活性化の可能性
渡辺 雄太	経営情報	不本意非正規労働者と雇用の流動性 ～トライアル雇用による再雇用政策～
相山 慎	経営情報	スポーツ集団におけるリーダーシップ ～村井・猪俣氏の追試研究～

(3) 卒業論文要旨集の作成と配布

- ・卒業論文提出後の発表会においては、昨年度まで一部の専攻で発表要旨を作成していなかったが、全専攻の全学生の卒論要旨を作成することが必要であり、現代社会学部においては共通のフォームにて「卒業研究要旨集」を作成し、関係者に配布した。

(4) 富山県寄付講義(現代社会学部分)の運営一元化

- ・富山県寄付講義の現代社会学部分は、従来年度末に近い時期にまとめて実施されがちであったが、より効果的に寄附講義を活用するために、学部学務委員会が全体計画を立て、後期の開始直後から開講が可能となるような体制を整えた。
- ・平成 28 年度は、以下の 6 講座が開講された。

番号	日時・会場	学部名・授業名・講義テーマ	講師
1	7月1日(木) 13:10~14:40 東黒牧C 4号館 401室	現代社会学部 経営情報専攻「情報関係法」 「国際社会から見た日本の表現の自由とメディアの問題」	藤田 早苗 氏 英国・エセックス大学人権センターフェロー
2	10月10日(火) 14:00~15:30 CiCビル3階	現代社会学部 環境デザイン専攻「環境デザイン特別講義」 「地域エネルギーと環境」に重点を置いたデンマークのエネルギー導入政策について」	ケンジ・ステファン・スズキ氏 デンマーク在住「風のがっこう」代表
3	11月17日(木) 10:40~12:10 東黒牧C 4号館 441室	現代社会学部 観光専攻「観光概論」 「富山の観光を語る」	内田 もも香 氏 元宝塚歌劇団
4	11月17日(木) 13:00~14:30 東黒牧C 4号館 401室	現代社会学部 環境デザイン専攻「環境デザイン特別講義」 「環境と福祉の接点」～明日の富山のくらしのデザインに生かす～	炭谷 茂 氏 恩賜財団済生会 理事長 富山国際大学客員教授
5	1月5日(木) 10:40~12:10 東黒牧C 441室	現代社会学部 観光専攻「観光概論」 「中国観光の現状と分析」	王 輝 氏 中国 遼寧師範大学 都市と環境学院 教授 (本学協定校)
6	3月2日(木) 13:30~16:10 富山県民会館 304号室	現代社会学部 「マーケティング戦略」 第13回 とやま産業観光フォーラム2017 「産業観光の今後の展望」	鈴木 進悟氏 NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク理事長 能作 克治氏 (能作 社長)

(5) 授業改善に向けたFD活動

1) 授業改善アンケート

- ・平成28年度の担当授業で行った授業改善の内容について、全専任教員を対象としたアンケートを実施した。結果は全教員に配布して知見を共有するとともに、抜粋したものを学生全員に配布した。
- ・産業界GP(平成26年度まで実施)で整備したアウトカム指標を用いて、学生自身が客観的に判断できるよう5段階の達成度を授業アンケートに反映し実施した。また講義科目以外の演習科目においても授業アンケートを実施した。

2) FD研究会開催実績

① 両学部FD研修会(第1回) 平成28年7月7日(木) 16:30~18:00

- ・対象 : 全教員(教員全体参加率65%)
- ・目的 : 本学の国際化推進の一環として、近年国内で増加している英語による正規科目の授業実践について学ぶ
- ・内容 : James Porcaro 本学元教授による模擬授業
- ・

② 両学部FD研修会(第2回) 平成29年3月1日(水) 13:30~16:00

- ・対象 : 全教職員(教職員全体参加率90%)
- ・目的 : 全国の私立大学の動向の動向について、私立大学協会の研修会報告を通して情報共有する。
- ・内容 : 総務部課長相当者研修会概要報告(大谷孝行教授)、障害学生支援実務者育成研修会概要報告(南佳克事務長)、「発達障害の理解と支援について」講演(富山大学人間
- ・

③ 現代社会学部教員相互授業参観 平成 28 年6月 15 日、17 日およびDVD視聴

- ・ 対象 : 全教員(参加者 13 名、DVD視聴8名)
- ・ 目的 : 授業アンケートにおいて評価の高かった教員授業参観を行い、アクティブラーニングについて考える。
- ・ 内容 : 高沢講師による「ビジネス実務演習 I」の授業参観

④ 現代社会学部FD研修会 平成 28 年9月 14 日(水) 11:00～12:00

- ・ 対象 : 全教員(教員全体参加率 90.5%)
- ・ 目的 : 各教員がこれまで取り組んできたアクティブラーニングの手法と高沢講師による参観授業のアクティブラーニングの手法との共通点や相違点を共有することで、効果的なアクティブラーニングの手法について考える。
- ・ 内容 : 高沢講師による参観授業に関する感想記録を資料としてワークショップを開催した。

⑤ その他のFD活動「平成 28 年度大学コンソーシアム富山FD・SD研修会」

平成 28 年8月 25 日(木) 13:30～16:30

- ・ 対象 : 大学コンソーシアム富山構成組織の教職員(参加者 163 名)
- ・ 目的 : 3つのポリシーを踏まえた大学教育への質的変換について考える。
- ・ 内容 : 基調講演「3つのポリシーの実現とそのためのアセスメント」(関西国際大学 濱名篤学長)、「3つのポリシーを踏まえた教育改革」事例報告(富山大学 鈴木基史副学長、富山県立大学 松本三千人副学長、富山短期大学 宮田徹教授)

2. 課題

(1) カリキュラムツリーの再整備やナンバリングの実施

- ・平成 28 年度以降入学生に適用するカリキュラムを改定したのに伴い、カリキュラムツリーを再整備し、学生や受験生にわかりやすく示す必要がある。
- ・平成 27 年度に出たナンバリング案は、学部間調整の必要性がありペンディングとなっているが、改定後のカリキュラムに則して早急に整備することが課題であった。ナンバリング案が完成したが、そのナンバーから紐づけられたシステム構成とはなっていない状況である。

(2) GPA の成績評価への活用

- ・全学学務委員会では GPA が概ね 1.0 以下の学生に関しては進級・卒業を認めない方向性が示されたが、運用にあたっては以下の点が課題となっている。また、成績表には GPA を記載し学生が意識するようになったものの、明確な制度設計に至っていない。
- ・単位数による進級・卒業要件との違いを明確に学生に周知する必要がある。
- ・現行制度では留学・インターンシップ等で修得した認定科目の単位が GPA の対象とならないため、留学・インターンシップに参加した学生ほど GPA 対象科目が減り、不利となる場合がある。また、意図的に登録単位数を減らし、良い成績をとった学生ほど有利になる。

こうした問題点をふまえた抜本的な制度の見直しが必要となる。

- ・シラバスに記載した成績評価方法に基づき、学生に明確に説明できるような評価を行うよう全教員に周知徹底し、成績分布が偏る科目が生じないよう配慮する必要がある。

(3) 卒業論文のレベルアップ

- ・卒業論文に関しては、優秀卒業論文の表彰の実施や各専攻による発表会の活発化により確実に内容が向上しており、卒業生アンケートでも卒論指導に対する満足度が向上している。一方で、学生によって内容のレベルに差が生じているのも否めない。一層のレベルアップを目指すためには以下のような取組みを行うことが課題となる。
- ・卒業研究を含む「専門演習Ⅱ」の単位数は12単位である。卒業論文は8単位に相当するので、ゼミ以外に相応の指導時間をとる必要がある。そのことを指導教員が十分認識するとともに、卒論を執筆する学生にも周知徹底する必要がある。
- ・卒論発表会は年に2回実施している専攻と3回実施している専攻があり、実施時期にも若干の差がある。専攻の考え方もあるので統一する必要はないが、どの時期の発表会をどんな意図で実施するのかについて明確にすることが課題となる。

(4) 授業改善に向けたFD活動

1) 教員相互授業参観

- ・教員全体の相互参観授業やベストティーチャーによる参観授業を行ってきたが、その有効性を、各教員の意見を取り入れて、学務委員会中心に検討し、有効な授業参観を実施する必要がある。

2) FDワークショップ及びFD研修会

- ・授業参観FDの内容とともにグループワークを中心としたワークショップにおいても、各教員の意見を取り入れて、学務委員会中心に検討し、有効なワークショップを実施する必要がある。また、有効であった手法に関して共通的にあるいは条件に応じて個別的に実施すべき事項が特定できれば、それを実施することも検討する必要がある。

3) 産業界GPの成果の継承

- ・産業界GP(平成26年度まで実施)で整備したアウトカム指標は、到達目標に対する5段階の到達度を、学生自身が客観的に判断できる測定手法である。授業アンケートへの取り入れは行ったが、取り入れ方に関して意見徴集と評価を行い、より適切な取り入れ方の提案実施を行う必要がある。

8. 学生活動・生活支援

1. 実績・現状

(1) 学生主体の大学づくりに向けた取り組み

1) 学生との意見交換会の開催

- ・学友会役員、大学祭実行委員、クラブ会会長および学長、学務部長、学部学務委員長との懇談会を開催し、学生との意見交換、学生生活・授業・施設に関する要望等の聴取を行った(平成 28 年 12 月 6 日)。学生から要望のあったロッカー設備の拡充や、夜間の照明、施設の空気調整については、設備の修理や照明時間の延長等で対応し、学生生活環境の改善をはかった。
- ・学友会役員、学務部長、事務部長、学生課係長、学部学務委員と食堂の運営委託先企業担当者間で、食堂の活性化に関する意見交換を行った(平成 28 年 11 月 29 日)。

2) 学生主体の大学行事運営とその支援

- ・各種行事については、学生が主体となって運営することを促し、教職員がサポート役に回することで、学生の自主性を高めるようにした。いずれの行事においても反省会を行い、それを次年度に生かすことで行事の活性化がはかられている。

① 新入生歓迎会(平成 28 年4月4日)

② スポーツ文化交流会(平成 28 年6月6日)

③ 学友会総会(平成 28 年8月2日)

④ オープンキャンパス(平成 28 年7月 23 日、8月 20 日)

⑤ 大学祭(紅嶺祭)(平成 28 年 10 月 29～30 日)

⑥ 東黒牧キャンパス交通安全運動(毎月1回)

⑦ クリスマスイベント(イルミネーションの点灯、クリスマスケーキの配布)(平成 28 年 12 月～平成 29 年2月)

⑧ クラブ会総会(平成 29 年3月3日)

⑨ 卒業記念パーティー(平成 29 年3月 18 日)

- ・上記の定例行事のほか、クラブ会主体で学内有志を募り、熊本地震支援のための募金活動を行った。義援金は北日本新聞社を通じて日本赤十字社県支部に預託され、その様子は北日本新聞でも取り上げられた。
- ・こども育成学部の学生との情報交換を活性化するために、両学部協働で実施する行事の事前打合せをウェブ会議やメーリングリストなど I T を活用した。これにより遠隔地ながらスムーズな情報共有を図ることができた。
- ・学生の活動を、広報誌のコスモス通りやホームページで積極的に紹介した。

(2) 学生生活関係アンケート

1) 学生生活アンケート(平成 28 年 9 月末に実施)

- ・通学に関しては、昨年に続き通学時間や費用が問題点として指摘されたが、自動車通学に切り替えるなどで対応していることが明らかになった。
- ・学業に関しては、4 年生の登校日数が子ども育成学部と比較して少なかった。
- ・学業に関する満足度では、充実した授業、学力の向上、教授陣の充実、資格就職関連授業で満足度が増加したが、不満に思う学生の割合も微増した。また、70%以上の学生が、授業が充実しており興味をもてると回答した。
- ・学外活動については、学外活動に参加する学生、アルバイトと学業を両立させる学生の割

合が増加した。

- ・学生生活全般に関する質問事項においては、大学に友人がおり、大学に来るのが楽しいと感じている学生の割合が増加した。

2) 卒業生アンケート(平成 29 年 2 月、各専攻卒業論文発表会終了後に実施)

- ・過去 4 年間のデータと比較すると、全体的に 2016 年度は 2013、4 年度の満足度に近い傾向が見られた。
- ・大学生活全体の満足度に関し、満足・やや満足の構成比は、過去 4 年間で 2015 年度に次いで 2 番目に高く、自己の成長への認識は他の年度と同様であった。
- ・本学で学ぶことを人に薦めたいと思う人の割合は 53%と 4 年間で最も低かった。一方、就職指導に対する満足度は、過去 4 年間で最も高かった。

(3) 学生活動の広報活動

- ・学生の国際的な活動に関する取組を積極的にホームページで紹介した。その際、日本語、外国語の二か国語で記事を執筆するなどの工夫をした。
- ・東黒牧ニュース(広報紙)で、活躍する学生を取り上げるシリーズの掲載を新たに開始した。

(4) 交通安全指導

- ・毎月実施している学生主体の交通安全運動に加え、ボート部学生が主体となり、ボートの漕艇場近辺で一般車両にも交通安全の呼びかけを実施した。

(5) クラブ・サークル活動(休部中のものを含む)

[部・10 団体] 硬式テニス部(休部中)、硬式野球部、サッカー部、女子ハンドボール部、男子バスケットボール部、ボート部、軽音楽部、茶道部、吹奏楽部、ボランティア部

[サークル・10 団体] バドミントンサークル、環境サークル、芸術サークル、国際交流サークル、中国サークル(休部中)、経済リサーチサークル、B 研(ビジネス資格研究会)、バスケサークル(新規)、ダンスサークル(新規)、韓国文化研究サークル

2. 課題

(1) 学内環境の改善に向けた調査、提言

- ・学生生活アンケートでは交通手段の拡充に関する要望が強い。交通機関との調整等、学内外の調整が必要な事象であり対応は容易ではないが、学生からの要望が強いとの認識を学内で共有する。

(2) 学生活動の広報強化

- ・部活動の対外試合の予告や結果、ボランティア活動、ゼミの地域貢献活動等を学外向けにはホームページ、学内向けには電子掲示板等を活用して積極的に広報していく。

(3) 交通安全の強化

- ・交通事故ゼロを目指し、従来の交通安全啓蒙活動に加え、新たな交通事故防止のための取り組みにつき検討する。

- (4)「夢へのかけ橋助成事業」の改善、活性化
- ・事業活性化のため、募集案内時期の早期化をはかる。

9. キャリア支援

1. 実績・現状

(1) インターンシップ（8月～9月）

①「富山県インターンシップ推進協議会」主催のインターンシップには、43名の学生が参加し、全員の単位が認められた。

- ・10月19日（水）研修報告会実施（学内選抜を兼ねる）。
- ・11月16日（水）学内報告会（学外発表者選抜を兼ねる）。
- ・12月7日（水）学外発表会（高岡法科大学）本学からの発表者：川口志穂

②海外インターンシップ「オイスカ タイ総局」については3名が参加し、いずれも単位が認められた。

(2) 「職場研修及び企業訪問」

大学コンソーシアム富山主催については申込者全員参加、他のコースも1名を除き全員が参加するなど、本学の積極的参加の下に終了した。

(3) 「平成28年度 企業・事業所・大学講演会」

（電気ビルディング5回大ホール 11月18日（金））

- ・講演会講師：惣万 佳代子氏
- ・参加企業数：86社
- ・講演会出席者：128人 企業82人 教員34人 職員12人
- ・懇親会出席者：117人 企業75人 教員30人 職員12人

(4) 模擬面接実習の実施

就職の個人面談に向けた実習を下記の2回に分けて行った。3月の合同企業説明会、2017年度の就職活動に向けた本格的スタートとも言えるが、ややマナー面での課題も残った。

①12月19日（月）～22日（木）

②1月26日（木）～31日（火）

(5) 合同企業説明会

2017年3月8日（水）、9日（木）において合同企業説明会を行った。

- ・3月8日（水）…74社 参加学生 88人参加
- ・3月9日（木）…75社 参加学生 89人参加

参加企業による「アンケート結果」については、「求人状況」、「印象に残った学生」といった内容も含むため、ゼミ担当教員全員に配布した。

(6) 教養演習ⅡにおけるSPI

キャリア科目のない2年生に対し、教養演習において20～30分程度、毎回SPIを取り上げた。

今後、大学Web等の導入を決定した。2017年度は、「経営者講座」が、2年次のキャリア科目として加わる。

(7) 公務員採用試験対策 (PAP)

今後、「行政職」の受験が見込まれる学生は3名である。2017年6月の試験予定にある。

(8) 就職状況

就職希望者に対し100%を達成した。また、大学院進学者は、富山大学大学院経済学研究科2名、同研究生1名、富山大学人間発達科学研究科1名であった。

2. 課題

- (1) 就職希望者において、精神面で脆弱な学生の就職支援の在り方については、保護者、専門家も含めた形で進める体制を整えることが求められよう。
- (2) 企業研究についての指導が必要である。必要な準備もなく各種面接に臨むケースが依然として見受けられる。基礎力の不足も否めない。
- (3) キャリア支援講座の内容については、新たに導入すべきもの、あるいは見直すべきものがないか検討しても良いのではないか。個人面談の回数を増やすことが検討されるべきだろう。
- (4) 公務員試験対策 (PAP) の体系化、体制の整備が急務であると思われる。本来、大学の正規科目にない科目の受験対策は困難を要する。例としては、「民法」、「ミクロ・マクロ経済学」等である。
- (5) 合同企業説明会については、学生が訪問しない企業への対応が難しい課題として残っている。
- (6) 富山県職業安定所(ハローワーク)からの週1日本曜日 午後から3時間、相談員が来校し、企業情報・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)の相談をいただいているが、来年度より、縮小が予想されることから新たな体制作りが必要であろう。
- (7) 留学生の日本企業への就職傾向が出てきており、留学生の採用に積極的な企業情報の拡充が必要となろう。また、日本人学生でも県外へ就職する学生、あるいはUターン学生への支援も重要な課題であろう。

10. 国際交流

1. 海外教育機関との協定

(1) 新たに「2+2 協定」を締結した大学

- ・大邱韓医大学 H29. 1. 31 締結
- ・鞍山師範学院 H28. 6. 6

(2) 新たな交流協定校

- ・大邱韓医大学 H29. 1. 31
- ・鞍山師範学院 H28. 6. 6
- ・レスブリッジ大学（カナダ） H28. 10. 31

(3) 協定更新大学

- ・ポートランド州立大学（アメリカ） H28. 10. 24 ※授業料免除条項を新たに加えた。
- ・聖公会大学（韓国） H29. 3. 1

(4) その他の協定

- ・大邱大学と LINK 事業実施協定 H28. 5. 23
- ・南通大学との海外事務所協定及び開設 H28. 6. 3

2. 受入学生数 32 名

- ・学部新 1 生 6 名（天津社会科学院 5 名、韓国・議政府女子高等学校）1 名
- ・学部編入生 9 名（大連海洋大学 1 名、南通大学 4 名、鞍山師範学院 2 名、ハルビン理工大学 2 名）
- ・交換留学生 14 名（大連海洋大学 5 名、聖公会大学 1 名、ウラジオストック経済サービス大学 1 名、ファーイースタン大学 2 名、ハルビン理工大学 2 名、鞍山師範学院 3 名）
- ・研究生 3 名（大連海洋大学 1 名、ハルビン理工大学 2 名）

表 留学生の入学状況（2008-2016）

入学者数	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
海外日本語学校	14	20	23	18	10	12	10	4	6
国内日本語学校			2	1		4	1	4	
2+2	0	0	0	0	4	2	2	1	9
正規生合計	14	20	25	19	14	18	13	9	15
交換留学	17	17	14	15	17	15	10	9	14
研究生	0	8	7	7	0	8	5	0	3
受入留学生総数	31	45	46	41	31	41	28	18	32

※海外日本語学校には、海外の高校からの入学者も含む（韓国のハンド）

※国内日本語学校には、国内の非協定校からの留学生も含む



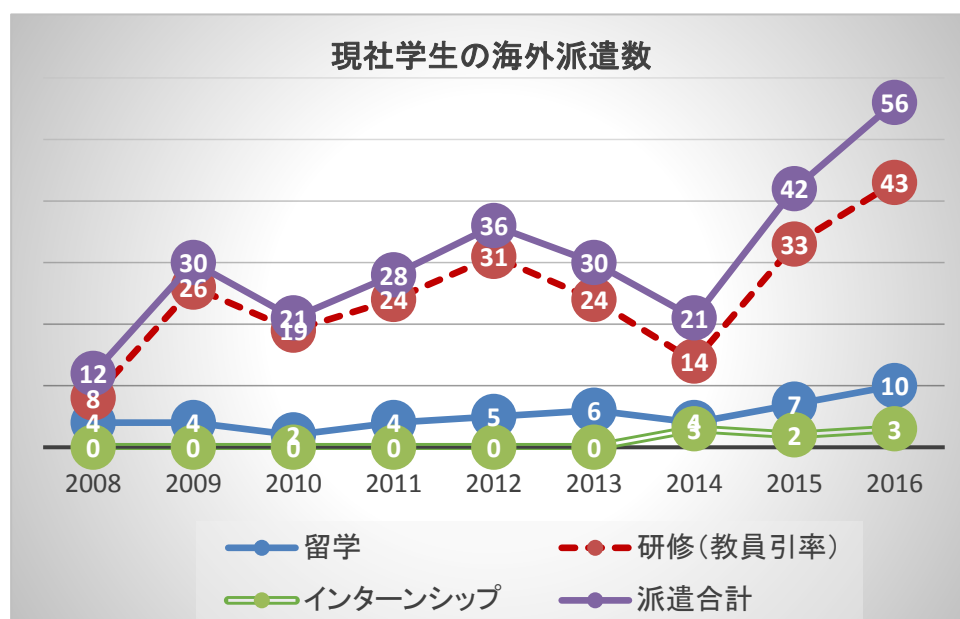
3. 本学学生の海外派遣数 68 名（現社 56、子ども育成 12）

- (1) インターナショナルプログラムズ(短期) 3 名（子ども 1 含む）
・ 5 週間（オーストラリア 2 名、中国 2 週間 1 名）
- (2) インターナショナルプログラムズ(長期) 8 名
（中国 1、ロシア 1、フランス 1、アメリカ 2、カナダ 1、オーストラリア 2）
- (3) 海外インターンシップ（バンコク・スリン）2 週間 3 名
- (4) 異文化研修(中国 9 月 3 日～9 月 10 日 8 日間) 9 名
- (5) 異文化研修(韓国) 9 月 20 日～27 日 8 日間 5 名
- (6) 異文化研修(オーストラリア) 8 月 20 日～28 日 8 日間 6 名
- (7) 異文化研修(タイ) 8 月 27 日～9 月 17 日 22 日間 7 名
- (8) 国際交流実習（タイ）2 月 18 日～3 月 7 日 18 日間 5 名
- (9) 個人研修（サモア）2 月 10 日～3 月 16 日 34 日間 2 名
- (10) ゼミ研修（韓国） 8 月 21 日～23 日 3 日間 3 名
- (11) 香港・マカオ 2 月 12 日～17 日 6 日間 6 名
- (12) 異文化研修(カナダ) 3 月 3 日～3 月 16 日 14 日間 11 名（子ども 11）

表：海外体験者数の推移（両学部合計数）

両学部合計	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
留学(3ヶ月以上)	2	2	1	4	3	5	1	4	8
留学(1ヶ月程度)	2	2	3(2)	2(2)	2	1	3	5(2)	3(1)
留学合計	4	4	4(2)	6(2)	5	6	4	9(2)	11(1)
研修	8	27(1)	20(1)	24	31	32(8)	14	34(1)	54(11)
インターンシップ	0	0	0	0	0	0	3	2	3
派遣合計	12	31(1)	24(3)	30(2)	36	38(8)	21	45(3)	68(12)

※()内は子ども育成の人数



4. 国際交流に関するイベント・研修等への参加学生数

	事業名	期間 H28、29 年	参加者数
1	留学・海外研修プログラム説明会	4 月 27 日	45 名
2	とやまアースデイ・フェスティバル タイ山岳少数民族「ムラブリ族」への 支援活動を紹介	5 月 15 日	10 名
3	留学生のための就職説明会	6 月 8 日	14 名
4	サマースクール 2016 Part1	7 月 19 日～26 日	南通大学 12 ハルビン理工大 4 鞍山師範学院 4
5	グローバル融合基盤創業キャンプ	8 月 9 日～11 日	富山国際大学 8 名 富山県立大学 14 名 大邱大学 20 名
6	サマースクール 2016 Part2 「グリーンツーリズムの学び」	8 月 16 日～20 日	大邱大学 3 名 南通大学 1 名 富山国際大学 2 名
7	English Camp	9 月 25 日～27 日	現社 11、子ども 11
8	富山市国際交流フェスティバル 2016 「留学体験報告」	11 月 6 日	12 名
9	富山市女性の翼の会員とのひな祭り と文化交流会 参加	2 月 25 日	現代社会学部 3 名
10	フィリピン学生との交流会開催 (JENISIS2016)	3 月 16 日～19 日	フィリピン大学生 22 名 富山国際大学生 8 名

5. TOEIC に関して

(1) TUINS TOEIC 講座 2016 東黒牧、呉羽キャンパスで各 10 回開催

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
東黒牧	6/15	6/17	6/17	7/8	7/13	7/22	11/16	11/30	12/7	12/14
人数	12	8	7	8	10	8	9	7	8	8
呉羽	6/8	6/10	6/24	6/29	7/20	7/20	11/17	12/1	12/5	12/15
人数	6	17	17	6	6	17	12	11	12	9

(2) ALC スマートラーニング(クラウド型 TOEIC 対策学習システム)H28 年 5 月～H29 年 3 月 31 日

現社 20 名、子ども育成 20 名利用

(3) TOEIC 試験直前集中講座(ALC 派遣講師)実施 H29 年 3 月 20 日～24 日 現社 13 名、子ども育成 15 名参加

- (4) 第1回 TOEIC IP テスト実施 H28 年 4 月 1 日 現社 12 名、子ども育成 18 名受験
- (5) 第2回 TOEIC IP テスト実施 H28 年 10 月 15 日 現社 15 名、子ども育成 13 名受験

6. チューター学生

前期 8 名（日本人 7 名、留学生 1 名） 後期 2 名（日本人 1 名、留学生 1 名）

7. SD・FD 研修会開催

- ・語学力向上のための SD 研修会（英語） 9 月 27 日 事務職員 16 名参加
- ・英語で授業を行うための学内 FD 研修会 7 月 7 日 教員 21 名参加

8. 海外訪問団受け入れ

- ・大邱大学 LINK 事業 11 月 23 日～11 月 25 日 6 名
- ・大邱大学洪総長一行来訪 H28 年 10 月 17-18 日 3 名
洪 徳律総長、本学学生に特別講演 100 名参加
- ・王輝教授（遼寧師範大学）来訪、講演 H29 年 1 月 4 日

9. 海外協定校との教員交流

- (1) 南通大学郭講師を客員教授として招聘 H28 年 8 月 10 日～29 年 1 月 6 日
※日本語授業 2 科目担当
- (2) 才田春夫現代社会学部教授を南通大学杏林学院客員教授として派遣
H29 年 3 月 20 日～3 月 25 日 ※6 コマの日本語授業を担当

10. 現状と課題

(1) 学部 1 年生の入学者数の減少傾向は変わらないが、編入生は大幅に増えている。中国の大学も海外留学を奨励していることから、編入生の確保は今後も可能性があると思われる。日本語能力と学力が一定程度保証されていることから、学生数の安定確保のために今後も協定校の拡大を図りたい。また、日本国内の日本語学校からの学生も日本語レベルが高いため、こちらの学生募集活動も強化すべきである。

(2) 海外派遣数は留学、研修等共に増加している。3 ヶ月程度の留学は増えているが、6 ヶ月以上の長期留学者数は伸びていない。英語圏への留学は授業料免除が無く、経費が高額になることがネックとなっている。そんな中、ポートランド州立大学とは、授業料相殺の協定書更新ができたことは評価に値する。授業料相殺が成立するよう、PSU からの留学生招聘に努力したい。また、民間からの奨学金（アイベック奨学金）が得られたことから、6 ヶ月以上の長期留学推進として使う予定である。海外研修参加者の延べ人数は増えているが、それでも全学生の 10%程度にしか過ぎない。参加者数を増やすには、魅力ある海外プログラムの開発、留学・研修経費の低価格化、奨学金の拡大などを図る必要があるが、学生が海外へ出たくなるような意識づけも大事である。海外体験報告会を行い、留学・研修報告パネルの作成・展示など、意識を高める努力をする必要がある。

(3) 外国語習得には、集中的に勉強する時期とその後の継続的な勉強が大事である。そのため複数の TOEIC 講座、English Camp、定期的な TOEIC IP 試験を行ってきた。意欲のある

学生にはすべてのプログラムに参加して欲しかったが、有効活用できた学生は期待より少なかった。それでも継続して勉強した学生は、TOEIC 点数が上がっている。600 点を取った日本人学生は 1 名だけだが、500 点前後の学生が数名いることから、2017 年中に 600 点クリアできるようサポートしていきたい。

- 。3 ヶ月程度の留学は増えているが、6 ヶ月以上の長期留学者数は伸びていない。英語圏への留学は授業料免除が無く、経費が高額になることがネックとなっている。そんな中、ポートランド州立大学とは、授業料相殺の協定書更新ができたことは評価に値する。授業料相殺が成立するよう、PSU からの留学生招聘に努力したい。また、民間からの奨学金（アイベック奨学金）が得られたことから、6 ヶ月以上の長期留学推進として使う予定である。海外研修参加者の延べ人数は増えているが、それでも全学生の 10%程度にしか過ぎない。参加者数を増やすには、魅力ある海外プログラムの開発、留学・研修経費の低価格化、奨学金の拡大などを図る必要があるが、学生が海外へ出たくなるような意識づけも大事である。海外体験報告会を行い、留学・研修報告パネルの作成・展示など、意識を高める努力をする必要がある。

- （3）外国語習得には、集中的に勉強する時期とその後の継続的な勉強が大事である。そのため複数の TOEIC 講座、English Camp、定期的な TOEIC IP 試験を行ってきた。意欲のある学生にはすべてのプログラムに参加して欲しかったが、有効活用できた学生は期待より少なかった。それでも継続して勉強した学生は、TOEIC 点数が上がっている。600 点を取った日本人学生は 1 名だけだが、500 点前後の学生が数名いることから、2017 年中に 600 点クリアできるようサポートしていきたい。

11. 地域交流・地域貢献

11-1 地域交流

1. 実績・現状

(1) エクステンション・カレッジ及びサテライト市民講座Ⅰ・Ⅱの実施状況（別表参照）

- ・「エクステンション・カレッジ」2016年度においては、別表の通りエクステンション・カレッジ特別講演4講座、エクステンション・カレッジ講座14講座、サテライト市民講座14講座の計32講座を設け、うち29講座を開講することが出来た。なかでも特別講演は、4講座で212名の参加者があった。英語、中国語など語学系の講座においては、安定した受講者数を維持し得た。
- ・「サテライト市民講座Ⅰ・Ⅱ」（講演会形式）を開講した。歴史、心理、法学、経済、マーケティング、環境等の分野のテーマで14講座を開講し、受講者総数は151名となり、昨年の138名を上回った。

(2) エクステンション・カレッジ特別講演の実施（別表参照）

- ・本学教員である秦野るり子氏による2回の講演は、2016年度における世界的な出来事についてタイムリーなテーマで行うことを目指したものである。

(3) 「地域連携活動年報」（第1号（2015年度版））を発刊（2016年4月）

- ・全教員の地域における活動を集約した「年報」として発刊にこぎつけることが出来た。

(4) 『2015 エクステンション・カレッジ』レビュー作成

- ・2016年度開講した全講座に関するレビューを発行。（2017年5月予定）

(5) その他～サテライト・オフィスの市民への開放（別表参照）

- ①富山市男女共同参画による2回の講演会が定着した。
- ②高校生・一般によるサテライト利用状況については、2335名と昨年より微減ながら、底打ち感も出てきている。
月ベースでは、増加している月が減少している月を上回ったことは評価されよう。

(6) 高岡市との包括連携協定

具体的な活動については、富山短期大学との連携の下で進める計画にあるが、高岡市との計画については、未だ具体化には至っていない。

2. 課題

(1) 2017年度は、南砺市サテライト・オフィスの講座もスタートすることから、より広範囲な広報活動が求められる状況にある。

(2) 2016年度の集客に寄与したタイムリーなテーマ講座設定と迅速な広報活動の継続が望まれる。

(3) 市民になじみ深い「サテライト市民講座Ⅰ・Ⅱ」の拡充を図り、参加者の拡大を図ることが求められよう。

(4) 外部講師による「エクステンション・カレッジ特別講演会」については、年1回の実施に立ち返るも人選においては、地元にはゆかりのある現在活躍中の講演者を招聘する予定である。

- (5) 学内の連携による他の行事によるサテライト・オフィスの利用拡大が求められる。また、本学が主催して、学外の団体、機関との共同による利用も促進する必要がある。

表 11-1 平成 28 年度 現代社会学部・子ども育成学部 サテライト市民講座 受講者数
調査対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

講座番号	開講日時	講座名	講師	受講者数
特別講座「少子高齢化時代の子育てと高齢者福祉」(子ども育成学部)				
1	5月7日(土)	きときと介護予防教室～いつまでも元気で過ごすために～	相山 馨	18
2	5月14日(土)	限界集落が教える確かな学び	水上 義行	12
3	5月28日(土)	経済から見た日本の少子高齢化	大西 一成	10
4	7月16日(土)	子どものころを育むために～遊びの中で育つもの～	本江 理子	14
5	7月30日(土)	とやまの福祉事業100年～高岡の先人たち～	宮田 伸朗	6
特別講座「現代社会を考える」(現代社会学部)				
6	6月4日(土)	日本の観光のあゆみ～江戸時代から現在まで～	高橋 光幸	6
7	6月11日(土)	考えてみよう～民主主義・立憲主義の現状と憲法改正～	後藤 智	23
8	8月6日(土)	欠陥住宅つかまされないために	川本 聖一	6
9	8月27日(土)	水素社会への基礎知識	上坂 博亨	4
10	9月17日(土)	デフレはいかにして克服されるか～景気、金利、為替の視点から～	大西 一成	13
特別講座「現代社会を考える」(現代社会学部)				
11	10月29日(土)	空き家の現状と利活用について	長尾 治明	7
12	11月19日(土)	良い子が育つ家づくり	川本 聖一	1
13	11月26日(土)	笑いを哲学する	大谷 孝行	21
14	2月18日(土)	地域経済の活性化に求められる政策を考える～「地域社会と少子高齢化」の視点から～	大西 一成	10
合 計				151

表 11-2 平成 28 年度 エクステンション・カレッジ 受講者数
調査対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

講座番号	開講日時	講座名	講師	人数
特別	7月9日	アイデアとからだ	赤松 隆一郎	113
特別	7月31日	EU離脱 その背景と影響	秦野 るり子	43
特別	8月19日	高齢者の生きがいづくり	長尾 治明	13
特別	11月12日	大統領選挙後のアメリカ	秦野 るり子	43
合 計				212
講座番号	開講日時	講座名	講師	人数
1	5月12日～6月9日(5回)	タイ語・タイ文化入門1	伊藤 雄馬	3
2	5月11日～7月20日(10回)	実用中国語(前期)	湯 麗敏	8
3	8月26日～9月23日(5回)	マーケティング基礎講座	長尾 治明	0
4	6月3日～7月29日(5回)	テロ・ヘイトスピーチに向き合う「寛容」をめぐって	福島 清紀	2
5	6月3日～7月29日(5回)	ジャズを聴きながら英語に親しむPartVI	福島 清紀	5
6	5月14日～7月30日(8回)	Let's enjoy talking to each other in English.	福島 美枝子	9
7	7月7日～21日(3回)	文月勉強会・立山砂防・カルデラを世界遺産に～市民と学ぶ、世界遺産・災害・自然～	尾畑 納子他3名	26
8	10月6日～11月6日(5回)	タイ語・タイ文化入門2	伊藤 雄馬	0
9	3月4日～25日(3回)	地域社会活性化への取り組みについて考える	大西 一成	4
10	2月2日～16日(3回)	消費者市民社会を考える	尾畑 納子 他1名	8
11	10月24日～11月28日(5回)	情報セキュリティの基礎知識	小西 英行 他1名	41
12	10月3日～24日(3回)	「地域社会発展のための要因」って何だろう?	高橋 光幸	0
13	10月9日～12月14日(10回)	実用中国語(後期)	湯 麗敏	8
14	10月1日～12月17日(8回)	Let's enjoy discussing things in English.	福島 美枝子	9
合 計				123

富山国際大学 エクステンション・カレッジ 特別講演

テーマ 「アイデアとからだ」

今回、「アイデアとからだ」についてお話してみたいと思います。
と申し上げると、僕の中に既にその答えやある種の結論めいたものが見えているような書き方をしましたが、まだはっきりとはわかりません。
ただ、その関係を身体で感じているのは確かです。そのことについてお話できたらと思っています。

日時 **2016年**
7月9日(土)
11:00 ~ 12:30 (受付10:30 ~)

定員
先着80名

受講料
無料

事前にお申込み下さい。
定員に達し次第締め切ります。

場所 **富山国際学園サテライト・オフィス**
富山駅前CiCビル3階 (富山県富山市新富町1-2-3) ※公共交通機関をご利用ください。

講師 **赤松 隆一郎 氏** ㈱電通CDC クリエイティブディレクター / CMプランナー / ミュージシャン

●プロフィール

1969年 愛媛県生まれ。大学卒業後、第一勧業銀行に入行。
4年間の勤務の後、1998年に㈱電通西日本松山支社に転職しクリエイティブとしてのキャリアをスタートし、現在に至る。
サントリー「グリーンダカラDA・KA・RA」「やさしい麦茶」「角ハイボール」ダイワハウス「D-room」グリコ「ブリッツ」等のキャンペーン統合ディレクション、CMの企画を行いながら、ミュージシャンとしても活動。自身の音楽ユニット「アンチモン」を主宰し、「グリーンダカラちゃんのうた」などのCMソングの他、劇中音楽の作曲、作詞、演奏も行っており、広告と音楽のフィールドを隔てなく行き来する、独特の制作スタイルを持つ。

●プログラム

11:00~11:05 学長挨拶 富山国際大学 中島恭一
11:05~11:10 講師紹介
11:10~12:25 講演
12:25~12:30 エクステンション・カレッジの案内



主催／富山国際大学エクステンション・カレッジ 後援／富山県教育委員会・富山市・(公財)富山県ひとづくり財団



学校法人富山国際学園
富山国際大学
Toyama University of International Studies

お問合せ
お申込みは

富山国際大学 地域交流センター

〒930-1292 富山市東黒牧65-1 TEL.076-483-8000 FAX.076-483-8008 E-mail:chiiki@tuins.ac.jp
http://www.tuins.ac.jp FAXでお申込みの場合は、裏面の送付票をご利用ください。

表 11-3 平成 28 年度 CIC サテライト利用状況 (4 / 6 現在)

	高校生	一般	小計	27年度	26年度	25年度
4	34	25	59	48	69	134
5	64	155	219	253	364	168
6	84	116	200	221	234	484
7	57	331	388	295	253	375
8	49	159	208	193	183	350
9	41	26	67	102	213	229
10	90	157	247	348	303	359
11	97	122	219	209	388	305
12	17	136	153	277	347	292
1	109	28	137	111	165	275
2	128	127	255	229	230	201
3	33	150	183	103	98	189
計	803	1532	2335	2389	2847	3361

11. 地域交流・地域貢献

11-2 地域貢献

1. 実績・現状

(1) 地域貢献活動

教員による地域貢献活動教員は以下のとおりである。

区分の凡例

1. 国際大学「地域出講プログラム」
2. 行政に関わる組織、委員会、審議会等の理事・委員
3. 大学主催以外の講演会、シンポジウムやマスコミ関係行事への参加
4. その他(上記に該当しない場合)

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
上坂博亨	no.1	2016/10/6	富山市教育委員会	平成 28 年度富山市民大学	1
上坂博亨	no.2	2016/11/17	上市町教育委員会	平成 28 年度ふるさと町民学園	1
上坂博亨	no.3	2016/8/23～ 2016/8/26	国立大学法人富山大学	平成 28 年度図書館司書講習会 (情報メディアの活用)	1
上坂博亨	no.4	2015/4/1～ 2017/3/31	富山高等専門学校	富山高等専門学校シニアフェロー	2
上坂博亨	no.5	委嘱日～ 2017/3/31	(一財)北陸産業活性化 センター	小容量バイオマス利用研究会委員	2
上坂博亨	no.6	委嘱日～ 2017/3/31	南砺市	南砺市エコタウン検討委員会 (委員長)	2
上坂博亨	no.7	委嘱日～ 2017/3/31	富山市	富山市環境未来都市農村活性化 PT	2
上坂博亨	no.8	委嘱日～ 2017/3/31	富山県	富山県公共事業評価委員会	2
上坂博亨	no.9	2016/9/15～ 2017/3/31	氷見市	氷見市ホームページ検討委員会 (座長)	2
上坂博亨	no.10	2016/5/14	アースデイ富山実行委 員会	キーノートスピーチ：富山における エネルギーシフトの近未来	3
上坂博亨	no.11	2016/5/27	国際交通安全学会 IATSS フォーラム	第 55 回 IATSS フォーラム研修	3
上坂博亨	no.12	2016/6/1	富山短期大学	黒部市宇奈月温泉における低炭素型 温泉づくりのプロジェクト	3
上坂博亨	no.13	2016/6/2	富山南ロータリークラ ブ	卓話：エネルギーシフトが生み出す 地域のサステナビリティ	3
上坂博亨	no.14	2016/6/4	NPO 法人エコテクノロ ジー研究会	総会基調講演： Sustainable Spa-area Development Using Regional Resources	3
上坂博亨	no.15	2016/6/16	富山第一銀行	平成 28 年度富山第一銀行奨学財団研 究助成セミナー	3
上坂博亨	no.16	2016/6/22	(一社)電気宇奈月プ ロジェクト	総会対談：土湯温泉町の復興創生	3
上坂博亨	no.17	2016/7/1	魚津市役所	魚津三太郎塾：でんき宇奈月プロジ ェクトのご紹介	3

上坂博亨	no.18	2016/8/30	(一社) 北陸グリーン エネルギー研究会	平成 28 年度全体発表会	3
上坂博亨	no.19	2016/9/26	富山県立大学長	富山県立大学 COC/COC+全国シンポジ ウム (分科会テーマ: 持続可能な社 会の実現)	3
上坂博亨	no.20	2016/9/27	国際交通安全学会 IATSS フォーラム	第 56 回 IATSS フォーラム研修	3
上坂博亨	no.21	2016/10/27	㈱北海道二十一世紀総 合研究所	中小水力発電導入セミナー	3
上坂博亨	no.22	2016/10/27	㈱北海道二十一世紀総 合研究所	「中小水力導入促進事業」委託業務 に係る中小水力発電導入セミナー	3
上坂博亨	no.23	2016/11/18	国立大学法人富山大学 長 遠藤俊郎	環境シンポジウム「環境都市・とや ま」の未来を考える	3
上坂博亨	no.24	2016/12/15	新潟県小水力利用推進 協議会長	2016 年新潟県小水力利用推進協議会 研修会	3
上坂博亨	no.25	2016/12/18	財務省富山財務局	富山県内経済に関する情報交換会	3
上坂博亨	no.26	2017/2/17	南越前町	南越前町小水力発電協議会研修会	3
上坂博亨	no.27	2016/9/16	資源エネルギー庁	再エネコンシェルジュ相談会	4
上坂博亨	no.28	2017/3/5	南砺市南砺で暮らしま せん課	平成 28 年度南砺市「やっとなこと発 表会」	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
大谷孝行	no.1	2016/7/3	上熊野町内会	講演「笑いを家庭に」	1
大谷孝行	no.2	2016/10/28	小矢部市教育委員会	小矢部市ことぶき大学講座 (小矢部市生涯学習講座)	1
大谷孝行	no.3	2016/11/5	(公社) 富山県看護協会 富山北支部	平成 28 年度 富山 3 支部合同部研修会	1
大谷孝行	no.4	2016/11/6	NPO 法人「生活の発見 会」富山集談会	講義「幸せに生きるために～外相と 内相から～」	1
大谷孝行	no.5	2016/11/10	富山市補導連絡協議会	講演「笑いを家庭に」	1
大谷孝行	no.6	2016/11/11	高岡市牧野校下社会福 祉協議会講演会	地域福祉向上・地域連携強化講演会	1
大谷孝行	no.7	2016/11/13	(特非) 安靖氷見共同 作業所	法人化 10 周年記念講演会 「笑い」と心の健康	1
大谷孝行	no.8	2016/11/23	発願寺	講演「とらわれとその克服法」	1
大谷孝行	no.9	2017/3/25	発願寺	講演「ユーモアのある人生を」	1
大谷孝行	no.10	2016/4/1～ 2018/3/31	富山県バスケットボー ル協会	富山県バスケットボール協会理事 (大学部門担当)・評議員	2
大谷孝行	no.11	2016/4/1～ 2018/3/31	北信越大学バスケット ボール連盟	北信越大学バスケットボール連盟理 事	2
大谷孝行	no.12	2016/4/1～ 2018/3/31	大学コンソーシアム富 山	大学コンソーシアム富山教育連携部 会委員	2
大谷孝行	no.13	2016/4/1～ 2018/3/31	ALL 富山 COC+	ALL 富山 COC+教育プログラム開発委 員会委員	2

大谷孝行	no.14	2016/8/25	大学コンソーシアム富山	FD・SD 研修会	3
大谷孝行	no.15	2016/8/26	富山国際大学・富山短期大学	富山国際大学・富山短期大学共同 FD・SD	3
大谷孝行	no.16	2016/9/26	富山県立大学	COC/COC+全国シンポジウム	3
大谷孝行	no.17	2017/1/19	大学コンソーシアム富山	高大連携セミナー「大学等および高等学校のためのアクティブラーニング」司会。	3
大谷孝行	no.18	2017/3/27	富山大学	ALL 富山 COC+シンポジウム	3
大谷孝行	no.19	2016/4/3～ 2017/2/5 (10 回)	NPO 法人「生活の発見会」	富山集談会の司会及び世話人	4
大谷孝行	no.20	2016/7/31	NPO 法人「生活の発見会」中部支部	「生活の発見会」拡大支部委員会兼役員研修会	4
大谷孝行	no.21	2016/8/2	富山国際大学 大谷孝行	イタイイタイ病関係者への聞き書き冊子贈呈(NHK 放映、北日本新聞、富山新聞掲載)	4
大谷孝行	no.22	2017/2/20	富山国際大学 COC/COC+	地方創成フォーラムのパネリスト	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
尾畑納子	no.1	2015～2016	富山県知事	「協働事業補助金検討会」委員	2
尾畑納子	no.2	2015/5/21～ 2017/5/20	富山県消費者協会	富山県消費者協会会長	2
尾畑納子	no.3	2015/8/1～ 2017/7/31	富山市長	富山市環境審議会委員	2
尾畑納子	no.4	2015/9/1～ 2017/8/31	北陸財務局	国有財産北陸地方審議会委員	2
尾畑納子	no.5	2016/3/1～ 2020/3/31	富山大学	教育プログラム開発委員会(仮称)委員	2
尾畑納子	no.6	2016/6/27～ 2018/6/26	富山県知事	富山県環境審議会委員	2
尾畑納子	no.7	2016/7/10～ 2018/3/31	富山県知事	富山県事業認定審議会委員	2
尾畑納子	no.8	2016/7/25～ 2017/3/31	富山県知事	富山県再生可能エネルギー等推進会議委員	2
尾畑納子	no.9	2015/2～	氷見市長	氷見市環境会議会会長	2
尾畑納子	no.10	2011/5～	富山市長	富山市教育委員	2
尾畑納子	no.11	2016/11/11	富山県知事	富山県総合計画審議会(安全・安心部会副部会長)	2
尾畑納子	no.12	2016/5/23	富山県生活環境文化部	2016 北東アジア自治体環境フォーラム in とやま	3
尾畑納子	no.13	2016/9/28	富山第一銀行共寿会	平成 28 年度富山第一銀行共寿会総会講演会	3

尾畑納子	no.14	2016/8/27	富山県世界遺産登録推進事業実行委員会	平成 28 年度世界遺産人材育成プロジェクト	3
尾畑納子	no.15	2016/11/12	大学コンソーシアム富山	平成 28 年度「大学連携講演」(公開講座)	3
尾畑納子	no.16	2016/9/23	上市町教育委員会教育長 藤縄太郎	自然環境講座 (身近な自然を再発見)	3
尾畑納子	no.17	2017/1/20	砺波市	砺波市消費者グループ講演会	3
尾畑納子	no.18	2017/1/24	富山市保健衛生連合会 麦島紀長	平成 28 年度研修会	3
尾畑納子	no.19	2017/2/13	「立山・黒部」ゆめクラブ	「立山・黒部」ゆめクラブ講演会	3
尾畑納子	no.20	2017/2/14	斜面防災対策技術協議会富山支部	2017. 斜面防災対策技術講演会	3
尾畑納子	no.21	2016/7/6	第 68 回全国植樹祭富山県実行委員会幹事長, 富山県農林水産部長	第 68 回全国植樹祭富山県実行委員会 第 4 回幹事会	4
尾畑納子	no.22	2016/12/16	第 68 回全国植樹祭富山県実行委員会幹事長, 富山県農林水産部長	第 68 回全国植樹祭富山県実行委員会 第 5 回幹事会	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
川本聖一	no.1	2016/10/19	上市町ふるさと町民学園	災害につよい家づくり	1
川本聖一	no.2	2016/8/6	サテライト市民講座	欠陥住宅をつかまされないために	1
川本聖一	no.3	2016/11/19	サテライト市民講座	良い子が育つ家づくり	1
川本聖一	no.4	1 回	富山県職業能力開発協会	富山県技能検定 首席技能検定委員	2
川本聖一	no.5	2016/12/2	富山テレビ放送	みんなのニュース 「富山の省エネ住宅」解説	3
川本聖一	no.6	2017/2/3	富山テレビ放送	みんなのニュース 「富山の住宅の太陽光発電」解説	3
川本聖一	no.7	2017/3/16	富山テレビ放送	みんなのニュース「八尾町桐谷地区新しい空家解体の取り組み」紹介	3
川本聖一	no.8	2016/5/15	アースデイとやま 2016 実行委員会	研究活動展示 (タイ・ムラブリ村の住居再建)	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
高橋光幸	no.1	2016/7/21～ 3/31	富山県教育委員会	平成 28 年度高岡高校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員	2
高橋光幸	no.2	2016/8/29～ 11/10	富山市	富山市観光戦略プラン策定委員会委員	2

高橋光幸	no.3	2016/11/17	南砺市	南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議委員長	2
高橋光幸	no.4	2016/4/30	富山県生涯学習カレッジ砺波地区センター	平成 28 年度前期 ふるさと発見講座 人間探求コースーとなみ野の大自然の脅威と人々の共生の歴史ー「砺波平野散村景観の保全と創造を考える」	3
高橋光幸	no.5	2016/7/4	富山県商工会連合会	小規模事業者経営改善資金融資制度審査会委員研修会「地域の小規模事業者が連携した観光振興のあり方」	3
高橋光幸	no.6	2016/9/23	公益社団法人青年海外協力協会中部支部	2016 年度 J I C A 北陸課題別研修事業 観光振興政策コース 講師	3
高橋光幸	no.7	2016/10/6	公益社団法人青年海外協力協会中部支部	2016 年度 J I C A 北陸課題別研修事業 観光振興政策コース 講師	3

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
長尾治明	no.1	2016/7/20	富山県警察学校長	富山県の経済について (初任科生教養講座)	3
長尾治明	no.2	2016/12/14	富山県高等学校教頭会	平成 28 年度富山県高等学校教頭会研究発表会における講演	3
長尾治明	no.3	2015/8/31～ 2017/3/31	富山市長	富山市総合計画審議会委員	2
長尾治明	no.4	2015/7/1～ 2017/6/30	富山市長	富山市公設地方卸売市場取引運営協議会	2
長尾治明	no.5	2015/7/17～ 2017/3-31	富山市長	「富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議」における委員	2
長尾治明	no.6	2015/9/30～ 指定の日まで	小矢部市長	小矢部市道の駅メルヘンおやべ指定管理候補者選定委員会委員	2
長尾治明	no.7	2016/3/31～ 2019/3/31	国立大学法人富山大学 長 遠藤俊郎	ALL 富山 COC+(プラス) 地方創生連絡協議会実務者会議	2
長尾治明	no.8	2016/4/1～ 2018/3/31	国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所 長	富山県道路安全・円滑化検討委員会 (委員長)	2
長尾治明	no.9	平成 28 年度 ～2018/3/31	南砺市行政改革推進本部 本部長(南砺市長)	南砺市行政改革推進委員会(委員長)	2
長尾治明	no.10	2016/4/1～ 2017/3/31	公益財団法人日本高等教育評価機構 理事長 黒田壽二	大学評価員	2
長尾治明	no.11	2016/4/22～ 2017/3/31	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局長	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局創業支援事業計画認定評価委員会 (委員長)	2
長尾治明	no.12	2016/5/9	富山県野球協議会会長	富山県野球協議会「第 1 回協議会」	2
長尾治明	no.13	2016/5/9, 1/26, 11/16, 12/2	調整部会部会長	富山市総合計画審議会「調整部会」	2
長尾治明	no.14	2016/5/12～ 2017/3/31	中部経済産業局長	中部経済産業局地域産業資源活用事業評価委員会	2

長尾治明	no.15	2016/5/12～ 2017/3/31	中部経済産業局長	中部経済産業局ふるさと名物応援事業補助金(地域産業資源活用事業)評価委員会	2
長尾治明	no.16	2016/5/12～ 2017/3/31	公益財団法人富山県新世紀産業機構理事長	平成 28 年度とやま中小企業チャレンジファンド事業選定委員会(委員長)	2
長尾治明	no.17	2016/5/12	富山県知事石井隆一	富山県地域産業人材育成・販路開拓支援事業費補助金及び伝統工芸品産業支援事業費補助金交付検討委員会	2
長尾治明	no.18	2016/5/16, 9/26	富山県中小企業団体中央会	平成 27 年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金に係る富山県地域採択審査委員会	2
長尾治明	no.19	2016/5/18, 11/28	富山市総合計画審議会会長	富山市総合計画審議会	2
長尾治明	no.20	2016/5/23	(株)スカイインテック富山支社	富山市商品力向上支援事業プロジェクト委員会	2
長尾治明	no.21	2016/5/26、 10/26、 2017/1/15、 2/9	北陸大学野球連盟	北陸大学野球連盟理事会(理事長)	2
長尾治明	no.22	2016/6/1～ 2018/5/31	富山県知事石井隆一	富山県大規模小売店舗立地審議会(会長)	2
長尾治明	no.23	2016/6/16	公益財団法人富山県新世紀産業機構	とやま新事業創造基金地域資源ファンド事業の平成 28 年度春期審査会の付議案件について	2
長尾治明	no.24	2016/6/17～ 7/19	富山県知事石井隆一	「伝統工芸の匠」認定検討会	2
長尾治明	no.25	2016/6/21	富山県商工労働部経営支援課長	富山県信用保証協会理事候補者検討委員会	2
長尾治明	no.26	2016/6/23	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構富山支部 富山職業能力開発促進センター所長	富山県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会	2
長尾治明	no.27	2016/7/22～ 2017/7/21	富山県知事石井隆一	「とやま食の匠」認定に関する懇談会(委員長)	2
長尾治明	no.28	2016/7/27	公益財団法人富山県新世紀産業機構	創業・ベンチャー挑戦応援事業に係る審査委員会(二次審査)の開催について(委員長)	2
長尾治明	no.29	2016/8/3	富山県経営管理部財政課	平成 28 年度富山県公共事業評価委員会(委員長)	2
長尾治明	no.30	2016/8/4, 2017/3/21	富山県地域人材育成協議会会長	富山県地域人材育成協議会	2
長尾治明	no.31	2016/8/26, 2017/3/23	富山県中小企業団体中央会	官学と中小企業との知の交流プラザ推進事業における委員会	2

長尾治明	no.32	2016/8/31	富山県農林水産部農産食品課長	富山県花総合センターの第三者による指定管理者に対する評価(第三者評価)における評価項目の確認について	2
長尾治明	no.33	2016/9/1～ 2017/3/31	富山市森雅志	富山市空家等対策協議会	2
長尾治明	no.34	2016/9/8	荻浦地区自治振興会会長	荻原まちづくりプロジェクトについて	2
長尾治明	no.35	2016/9/23	富山市森雅志	富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議	2
長尾治明	no.36	2016/9/28	ねんりんピック富山2018 実行委員会会長 石井隆一	「ねんりんピック富山2018 実行委員会」第1回総務・企画専門委員会	2
長尾治明	no.37	2016/9/28～ 目的達成の日	ねんりんピック富山2018 実行委員会会長 石井隆一	「ねんりんピック富山2018 実行委員会」総務・企画専門委員会(委員長)	2
長尾治明	no.38	2016/9/29, 2017/3/22	(株)ケーブルテレビ富山	放送番組審議会	2
長尾治明	no.39	2016/10/4	富山県知事石井隆一	富山県地域交通ビジョンフォローアップ会議	2
長尾治明	no.40	2016/10/6	中部ブロック会商工会職員協議会	平成28年度中部ブロック会商工会職員協議会一商工会経営支援事例発表 中部ブロック大会 審査委員長	2
長尾治明	no.41	2016/10/11～ 2017/3/31	富山労働局長	富山県地域訓練協議会・富山県地域ジョブカード運営本部会議(委員長)	2
長尾治明	no.42	2016/10/13	富山県知事	富山県花総合センター指定管理者評価委員会	2
長尾治明	no.43	2016/10/13		富山県花総合センター指定管理者評価委員会(委員長)	2
長尾治明	no.44	2016/10/24		平成28年度とやま新事業創造基金農商工連携ファンド事業に係る審査会	2
長尾治明	no.45	2016/10/25～ 2017/3/31	富山県知事石井隆一	生涯暮らしたいまち検討委員会(委員長)	2
長尾治明	no.46	2016/10/27	富山市森雅志	富山市総合計画審議会「活力・交流部会」(部会長)	2
長尾治明	no.47	2016/10/28		「道の駅」先進地視察について	2
長尾治明	no.48	2016/11/7	公益財団法人富山県新世紀産業機構	若者・女性・シニア創業チャレンジ支援事業に係る審査委員会(二次審査)の開催について(委員長)	2
長尾治明	no.49	2016/11/21	富山県高齢福祉課長	第1回生涯暮らしたいまち検討委員会	2
長尾治明	no.50	2016/12/6	荻浦地区自治振興会会長	「荻浦まちづくりアンケート」調査結果報告会	2
長尾治明	no.51	2016/12/20	大学コンソーシアム富山地域貢献部会長	平成28年度第2回産学官金ネットワーク会議	2
長尾治明	no.52	2016/12/26, 2017/3/27	滑川市地域公共交通会議会長	滑川市地域交通公共交通会議(委員長)	2

長尾治明	no.53	2017/1/23	富山県知事石井隆一	富山県地域交通活性化推進会議	2
長尾治明	no.54	2017/1/26	富山県知事	「富山県推奨とやまブランド」育成・認定に関する委員会	2
長尾治明	no.55	2017/1/26～ 2018/12/7	富山県知事石井隆一	富山県総合計画審議会専門委員(安心部会)	2
長尾治明	no.56	2017/2/1～ 2020/1/31	富山県知事石井隆一	富山県国土利用計画審議会	2
長尾治明	no.57	2017/2/7～ 2018/2/6	富山県知事石井隆一	富山県広域まちづくりモデル調査検討会	2
長尾治明	no.58	2017/3/21	富山県知事石井隆一	あいの風とやま鉄道富山駅高架下開発検討委員会	2
長尾治明	no.59	2017/10/29	越中とやま食の王国フェスタ実行委員会事務局	越中とやま食の王国フェスタ 2016～秋の陣～及び平成 28 年度「とやま食の匠」の認定について	2
長尾治明	no.60	委嘱の日～ 2017/3/31	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局創業支援事業計画認定評価委員会委員長	2
長尾治明	no.61	委嘱の日～ 2017/3/31	中部産業局長	中部経済産業局地域産業資源活用事業氷解委員会委員	2
長尾治明	no.62	委嘱の日～ 2017/3/31	中部産業局長	中部経済産業局ふるさと名物応援事業補助金（地域産業資源活用事業）評価委員会委員	2
長尾治明	no.63	委嘱の日	富山県知事	「とやま食の匠」認定のに関する懇談会委員	2
長尾治明	no.64	委嘱の日	富山県知事	富山県花総合センター指定管理者評価委員	2
長尾治明	no.65	委嘱の日～ 本委員会の目的が達成されたときまで		ねんりんピック富山 2018 実行委員会専門委員会委員（委員長）	2
長尾治明	no.66	2016/4/5	富山市職業訓練センター協会会長	新入社員研修の講師「最近の経済状況を知る」「営業の視点から企業を見直す時代」	3
長尾治明	no.67	2016/7/20	富山県警察学校長 小林弘幸	富山警察学校初任科短期生・長期生研修	3
長尾治明	no.68	2017/2/20		平成 28 年度国際大学地方創生フォーラム 講演「能力特性評価テストの開発」とパネルディスカッション・コーディネーター「大学における課題解決型人育成の現状と課題」	3
長尾治明	no.69		大学コンソーシアム富山地域貢献部会長	平成 27 年度「学生による地域フィールドワーク研究助成」成果発表会	3
長尾治明	no.70	2016/11/13	星野リゾート代表 星野佳路	平成 28 年度とやま観光未来創造塾基調講演「観光立国への道」	3
長尾治明	no.71	2017/3/14	高岡地域振興プラン策定	講演「地方創生について」	3

長尾治明	no.72	2017/3/29	富山市職業訓練センター協力会会長	新入社員研修の講師 「最近の経済状況を知る」 「営業視点から企業を見直す時代」	3
------	-------	-----------	------------------	---	---

名前	番号	月日・期間(回数)	依頼元	講演名等	区分
後藤 智	no.1	2017/3/2～3/31	富山労働局	「地域若者サポートステーション事業」に係る技術審査委員会・委員長	2
後藤 智	no.2	2017年3月(予)	富山労働局	若年者地域連携事業に関する技術審査委員会(昨年度は委員長)	2
後藤 智	no.3	2017/3/21～4/30	富山労働局	「人材不足分野における人材確保のための雇用管理改善促進事業(啓発実践コース)」に係る技術審査委員会・委員長	2
後藤 智	no.4	2017/3/21～3/31	富山労働局	「介護分野における人材確保のための雇用改善推進事業」に係る技術審査委員会・委員長	2
後藤 智	no.5	2016/6/30	富山県高等学校教育研究会公民部会	講演：主権者にとっての立憲主義・民主主義とは―最近の憲法改正論議にも触れつつ―	3

名前	番号	月日・期間(回数)	依頼元	講演名等	区分
佐藤綾子	no.1	2015/10/16～2017/10/15	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構資産処分審議会委員	2
佐藤綾子	no.2	2015/4/1～2017/3/31	内閣総理大臣	独立行政法人評価制度委員会臨時委員	2
佐藤綾子	no.3	2016/10/14～2017/3/31	立山町長	立山町行財政改革会議委員	2
佐藤綾子	no.4		日本海ガス	CSR 報告書第3者意見執筆	4

名前	番号	月日・期間(回数)	依頼元	講演名等	区分
助重雄久	no.1	2016/8/9～8/10	茨城県高等学校教育研究会地理部長	平成28年度夏季研究大会(富山巡検)現地アドバイザー	2
助重雄久	no.2	2016/7/24	滑川市立博物館	立山黒部ジオパーク展記念講演会「滑川の自然で学ぶ―立山黒部ジオパークとその活用―」	3

名前	番号	月日・期間(回数)	依頼元	講演名等	区分
高橋ゆかり	no.1	委嘱の日～2017/9/30	富山県知事	富山県総合雪対策推進会議委員	2
高橋ゆかり	no.2	2016/11/23～2018/11/22	富山県知事	富山県森林審議会委員	2
高橋ゆかり	no.3	委嘱の日～2017/3/31	金沢大学環日本海地域環境研究センター	金沢大学環日本海地域環境研究センター 教育関係共同利用拠点運営委員会委員	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
秦野るり子	no.1	2016/11/9	北日本放送	ニュースeveryにて米大統領選についてコメント	4
秦野るり子	no.2	2016/11/10	北日本放送	ニュースeveryにて米大統領選についてコメント	4
秦野るり子	no.3	2017/3/14	富山ロータリークラブ	卓話 (演題未定) 要確認	3
秦野るり子	no.4	2016/4/22～ 2017/3/24	(公財)フォーリン・プレスセンター	「今月の雑誌から (主要月刊誌の注目記事の抄訳)」編集委員	2

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
高橋哲郎	no.1	平成 28 年度	富山労働局	富山地方最低賃金審議会会長	2
高橋哲郎	no.2	平成 28 年度	富山大学研究推進機構 産学連携推進センター	とやまビジネスプランコンテスト実行委員	2
高橋哲郎	no.3	平成 28 年度	(公財)環日本海経済研究所	共同研究員	2
高橋哲郎	no.4	平成 28 年度	富山労働局	専門家派遣・相談事業に係る技術審査委員会委員長	2
高橋哲郎	no.5	平成 28 年度	富山労働局	医療労務管理支援事業に係る技術審査委員会委員長	2
高橋哲郎	no.6	2017/1/31	富山市教育委員会	富山市民大学特別講義	3
高橋哲郎	no.7	2017/2/15	昭栄広報	進路ガイダンス「ちがいは講座」石川県立松任高校	4

(2)「高校出講プログラム」に基づく活動

教員による「高校出講プログラム」に基づく活動は以下のとおりである。

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
上坂博亨	高校出講プログラム	2016/1/31	富山県立大門高等学校	課題研究発表会の評価者
上坂博亨		2016/11/5	富山県立魚津工業高等学校	環境保全に関する中高生対象のシンポジウム「とやまの環境を考える」
上坂博亨		2016/12/8	石川県立津端高等学校	平成 28 年度進路ガイダンス
上坂博亨		2016/9/24	付属富山国際高校	平成 28 年度進路ガイダンス

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
大谷孝行	高校出講プログラム	2016/7/19	富山国際大学付属高等学校	高大連携講座「人はなぜ勉強するのか～フーテンの寅さんに学ぶ～」
大谷孝行		2016/9/24	富山国際大学付属高等学校	仕事を考えるシンポジウム
大谷孝行		2016/12/8	富山県立新湊高等学校	大学教員特別授業「笑いを通じて人と温かい関係を学ぶ」
大谷孝行		2017/3/19	富山県立高岡南高等学校	高校出講プログラム「人はなぜ笑うのか～笑いの意味やすばらしさ～」

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
尾畑納子	高校出講プログラム	2016/5/13	富山県立氷見高等学校	研究活動を進める上での考え方や研究手法についての講義
尾畑納子		2016/12/8	富山国際大学付属高等学校	第1学年「高大連携講座」(12月)

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
大西一成	高校出講プログラム	2016/9/8	富山県立砺波高等学校	「課題研究(ディベート)における指導助言」
大西一成		2016/12/8	富山県立新湊高等学校	「本や新聞との付き合い方～高校生からみた情報社会とその問題点～」

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
後藤 智	高校出講プログラム	2016/10/1	富山県立中央農業高等学校 (平成28年度文部科学省土曜学習推進事業・平成28年度第1学年親子進路説明会)	18歳選挙権―選挙参加と国民主権・民主主義―

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
秦野るり子	高校出講プログラム	2016/12/7	県立高岡商業高等学校	「グローバル人材とは」
秦野るり子		2017/3/19	県立高岡南高等学校	「異文化」との接し方

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
佐藤勝秀	高校出講プログラム	2016/12/7	富山県立水橋高等学校	「観光とエアライン」講師
佐藤勝秀		2016/12/8	富山県立泊高等学校	「観光とエアライン」講師

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
----	------	----	-----	------

高橋光幸	高校出講プログラム	2016/5/13	富山県立氷見高等学校	平成 28 年度普通科 文理探求コース「探求」にかかわる招聘講座
高橋光幸		2016/9/16	富山県立氷見高等学校	平成 28 年度普通科 文理探求コース 課題研究発表会 講師
高橋光幸		2016/9/30	新川高等学校	2 学年(特進)総合学習 講師
高橋光幸		2017/3/22	富山いずみ高等学校	1 学年総合学科「出前講座」 講師

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
湯麗敏	高校出講プログラム	2016/11/2	富山県立泊高等学校	観光ビジネスコース「海外学習事前学習」
湯麗敏		2017/2/13	星槎国際高等学校富山センター	国際交流・異文化理解
湯麗敏		2017/3/10	高岡龍谷高等学校	職業理解/観光・ホテル関連

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
長尾治明	高校出講プログラム	2016/9/24	富山国際大学付属高等学校	進路ガイダンス
長尾治明		2016/12/14	富山県高等学校教頭会研究発表会	講演「北陸新幹線開業効果と今後の課題」

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
助重雄久	高校出講プログラム	2016/11/1	富山県立南砺福野高等学校	地域課題学習講演会「地域のさまざまな課題について考えよう」
助重雄久		2017/3/7	富山県立南砺福野高等学校	地域課題学習発表会審査・講評
助重雄久		2017/3/16	富山県立大門高等学校	体験講座「デジタル地図で世界や富山を考えよう」
助重雄久		2017/3/22	富山県立泊高等学校	観光ビジネスコース実践発表会講評・講演「黒部川扇状地の恵みを観光に活かす」

(3) KNB ラジオ出演

KNB ラジオ「～教えて！ティーチャー！」に出演している。

名前	社会貢献	月日	テーマ
上坂博亨	KNB ラジオ出演	2016/9/7	電気自動車で賢くお得に！

名前	社会貢献	月日	テーマ
佐藤勝秀	KNB ラジオ出演	2016/7/20	観光とエアライン
名前	社会貢献	月日	テーマ

秦野るり子	KNB ラジオ出演	2016/7/6	米大統領選は二人の嫌われ者の戦い
秦野るり子		2016/11/16	なぜ、トランプ氏が米大統領に当選したか

名前	社会貢献	月日	テーマ
湯 麗敏	KNB ラジオ出演	2016/12/21	異文化体験談

名前	社会貢献	月日	テーマ
佐藤綾子	KNB ラジオ出演	2016/11/2	公会計について

名前	社会貢献	月日	テーマ
尾畑納子	KNB ラジオ出演	2016/8/3	環境にやさしい洗浄研究

(4) 学生派遣活動

学生派遣活動(学部または大学から地域社会に学生個人または学生グループを派遣)は以下のとおりである。

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
環境教員 全員	フィールドワーク	2016/7/16	富山市桐谷地区	環境デザイン実習「森の健康診断」

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
上坂博亨	その他	2016/3/12	富山市大山文化会館	第14回春まちコンサート(吹奏楽部)

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
高橋光幸	フィールドワーク	2016/6/5	砺波市庄川町	庄川町観光実態調査(3年生ゼミ生による現地調査)
高橋光幸		2016/8/25 ～8/26	新潟県十日町市・南魚沼市	観光地実態調査(3年生ゼミ生による現地調査)

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
尾畑納子	フィールドワーク	2016/8/24 ～27	富山県知事政策局	平成28年度世界遺産人材育成プロジェクトユースプログラム ～立山カルデラの防災遺産～
尾畑納子		2016/12/2	富山県消費者協会	平成28年度消費者アンケートに関する学生意見交換会

尾畑納子	イベント	2016/12/11	富山県民会館	世界遺産登録推進国際シンポジウム2016—立山砂防の防災システムを世界遺産に
尾畑納子	ボランティア活動	2016/5/22, 6/16,9/3,10/23	富山国際大学キャンパス周辺	森林整備活動(オスカーホーム・NPO 法人きんたろう倶楽部協働)

指導教員同行教員	学生派遣(学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
川本聖一	フィールドワーク	2016/4/24	NPO 法人きんたろう倶楽部	第17回呉羽丘陵竹林整備ボランティア

指導教員同行教員	学生派遣(学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
大谷孝行	フィールドワーク	2016/12/13	富山県イタイイタイ病資料館	専攻実習「過去の公害に学ぶ」
大谷孝行	その他	2016/4/17	富山県西部体育センター	第58回富山県一般男女バスケットボール選手権大会出場
大谷孝行		2016/4/24	富山県総合体育センター	第58回富山県一般男女バスケットボール選手権大会出場
大谷孝行		2016/5/3～5/5	いしかわ総合スポーツセンター	第50回笹本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ出場(石川県)
大谷孝行		2016/8/17	上市町丸山総合公園	第3回富山チャレンジリーグ出場
大谷孝行		2016/9/3～9/4	北陸大学	第1回北陸地区大学バスケットボール大会出場
大谷孝行		2016/9/25	朝日サンリーナ	第70回富山県バスケットボール男女総合選手権大会出場
大谷孝行		2016/10/21	福井市体育館	第50回北信越大学バスケットボール選手権大会出場(福井県)
大谷孝行		2017/3/5	富山県西部体育センター	第24回冬季一般男女選手権大会出場

指導教員同行教員	学生派遣(学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
佐藤綾子	イベント	2016/9/15	富山県議会・富山県庁	富山県議会傍聴・富山県知事意見交換会引率
佐藤綾子	イベント	2016/11/12	北日本新聞社	北日本新聞公開シンポジウム「民意と歩む 議会は変えられるか」引率
佐藤綾子	ボランティア活動	2016/5/16～5/30	北日本新聞社	熊本募金活動(学内での募金活動及び北日本新聞を通じた赤十字への寄付)

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
助重雄久	フィールド ワーク	2016/6/25	富山市街地(松川 周辺、総曲輪、西 町)	1年助重 ゼミ「市街地の変遷に関する観 察調査」および「自家用車乗車人員調 査」
助重雄久		2016/7/2	富山市街地(松 川、総曲輪周辺)	都市と観光「まちなか周遊プラン作成の ための野外観察調査」
助重雄久		2016/7/21	南砺市城端地区	卒業論文(高田有紀)「住民からみた観光 資源の価値ー南砺市城端地区を事例と してー」に関わるヒアリング調査
助重雄久		2016/9/3～ 9/6	函館市(金森赤 レンガ倉庫、元町教 会群等)	3年助重 ゼミ「北海道小樽市における観 光の現況と課題」に関わる観光動向調査
助重雄久		2016/9/17	上市町 穴の谷の 霊水	卒業論文(石場清佳)「上市町におけるス ピリチュアル・ツーリズムの可能性と課題」 対面式アンケート調査(現地指導)
助重雄久		2016/10/26	射水市 (株)地域 交流センター企画	卒業論文(鈴木有生)「映画のロケが地域 の活性化に及ぼす効果ー「人生の約束」 新湊ロケを事例としてー」に関わるヒア リング調査(4年ゼミ学生1名)
助重雄久		2016/11/5 ～11/6	石川県山代・山中 温泉	観光調査・分析法「山中・山代温泉観光 動向調査」(観光客への対面式アンケート 調査)
助重雄久	その他	2016/4/24	愛知池漕艇場(愛 知県東郷町)	第61回中日本レガッタ(ボート部長として 広報・撮影・選手サポート)
助重雄久		2016/5/29	戸田ボートコース (埼玉県戸田市)	第39回全日本軽量級選手権大会(ボート 部長として広報・撮影・選手サポート)
助重雄久		2016/6/12	大阪府立漕艇セ ンター(大阪府高 石市)	第1回西日本選手権(ボート部長として広 報・撮影・選手サポート)
助重雄久		2016/9/23 ～9/25	戸田ボートコース (埼玉県戸田市)	第44回全日本大学選手権大会(ボート部 長として広報・撮影・選手サポート)
助重雄久		2016/11/12	戸田ボートコース (埼玉県戸田市)	第95回全日本選手権大会(ボート部長と して広報・撮影・選手サポート)
助重雄久		2017/3/5	富山国際学園サ テライト・オフィス	富山地学会 2016 年度学生研究発表大 会(助重 ゼミ3・4年生発表3件)

2. 課題

(1) 地域貢献活動

現在は、教員の活動実績の把握に留まっている。その分析、課題および今後の推進方策の検討が必要で。今後は地域交流センターの年報作成と連携して情報の収集・活用を行うとともに、過去2か年分のデータを含めた3か年分のデータの分析視点の検討、および分析作業を行い、学部として地域貢献活動推進のための在り方を探りたい。

データ再整理の枠組みを次のように想定する。

教員名	計	行政の委員会等	行政主催の講演会等	経済団体・地域団体等の委員会	経済団体・地域団体等主催の講演会等	大学主催の講演会等	その他
計							

(2) 「高校出講プログラム」に基づく活動

地域貢献活動で述べたことと同様である。

データ再整理については、次のように枠組みを想定する。

高校名	担当教員名	回数	実施時期

(3) 学生派遣活動

学生派遣については 28 年度分と 27 年度を比較すると件数として減少している。この点については、今後教員の指導にかかる時間や学生の意欲を高めること教育方法について検討したい。

データ再整理については、次のように枠組みを想定する。

	県関係	市町村関係	企業・経済団体関係	住民関係
フィールドワーク	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)
イベント				
ボランティア活動				
その他				

12. 入試対策

1. 実績・現状

(1) 平成 29 年度学生募集活動の基本方針

- 1) 入学定員の確保…平成 28 年度の入学者が 94 名(定員充足率 78.3%)で現代社会学部開設以降最低となったことから、入学者の回復に全力をあげる。120 名の入学定員確保は現実的に困難であるが、最低でも定員の 90%にあたる 108 名以上の確保を目指す。
- 2) 歩留率の向上…平成 28 年度は一般・特別奨学生・センター入試の歩留率が大幅に低下したことから、歩留率の向上に向けた取り組みを行う。具体的には、高校教員ではなく高校生や保護者に直接アピールできるような広報活動に力を入れる。
- 3) 「底ざらい」の防止…平成 26、27 年度入試では、定員確保を優先するばかりに合格基準を下げて「底ざらい」を行ったことが高校や保護者の不信感を招き、平成 28 年度の入学者減少に結びついたと考えられる。このため、平成 29 年度入試では定員確保に留意しつつも、学力等が一定水準に満たない受験生は不合格とする。
- 4) 留学生の合否判定の厳格化…平成 26 年度に「底ざらい」した留学生の多くが留年・退学したことをふまえ、留学生の合否判定はより厳正かつ慎重に行う。

表 12-1 入試状況の推移 (平成 20～29 年度入試)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
入学定員(人)	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120
志願者数(人)	215	187	207	169	172	156	196	215	201	198
受験者数(人)	214	186	204	165	171	156	195	215	198	198
合格者数(人)	187	158	181	153	162	149	193	209	189	181
入学者数(人)	132	119	136	104	105	98	110	116	94	108
定員充足率(%)	110.0	99.2	113.3	86.7	87.5	81.7	91.7	96.7	78.3	90.0
歩留率(%)	70.6	75.3	75.1	68.0	64.8	65.8	57.0	55.5	49.7	59.7
合格率(%)	87.4	84.9	88.7	92.7	94.7	95.5	99.0	97.2	95.5	91.4

表 12-2 入試形態別入学者数

受験区分		A.27年度	B.28年度	C.29年度	増減(C-B)
推薦入試	(Ⅰ期)指定校制	17	14	16	2
	(Ⅰ期)公募制一般型専願	11	8	9	1
	(Ⅰ期)公募制一般型併願	3	2	0	-2
	(Ⅰ期)公募制諸活動型併願	16	16	15	-1
	(Ⅱ期)公募制一般型専願	5	6	3	-3
	(Ⅱ期)公募制諸活動型専願	6	3	1	-2
	計	58	49	44	-5
AO入試		1	3	5	2
一般・特別奨学生・センター	一般入試(前期)	24	18	33	15
	一般入試(後期)	3	3	4	1
	特別奨学生選抜入試(前期)	5	4	3	-1
	特別奨学生選抜入試(後期)	3	2	1	-1
	大学入試センター試験利用型入試(前期)	12	7	6	-1
	大学入試センター試験利用型入試(中期)	2	0	1	1
	大学入試センター試験利用型入試(後期)	0	2	2	0
	計	49	36	50	14
留学生	海外協定校	3	5	4	-1
	特別入試(Ⅱ期)一般型	3	0	1	1
	特別入試(Ⅱ期)諸活動型	1	1	3	2
	日本語学校協定校	1	0	1	1
	計	8	6	9	3
合計		116	94	108	14

(2) 平成 29 年度入試結果全般(表 12-1)

- 1) 入学者は 108 名で定員を満たすには至らなかったが、最低ラインの 108 名(定員の 90%)は確保した。
- 2) 歩留率は前年度比 10.0%上昇した。高校生や保護者に直接アピールするため、①進学説明会では学内外で積極的に活動している学生を登用し、入学動機や学生生活について率直に話してもらったこと、②オープンキャンパスの際に各高校の先輩の活躍を伝えるポスターを貼ったこと、③一般・特奨・センター入試の合格通知に学部長の挨拶と学生の活躍を伝えるダイレクトメールを同封したことなどが、歩留率の向上に結びついたと考えられる。
- 3) 入試の合否判定にあたっては、大学での授業についていけないと判断した学生 17 名(受験者の 8.6%)を不合格とした。不合格者数とその割合は、連続的な定員割れが始まった平成 23 年度以降では最高となった。
- 4) 留学生に関しては、出願書類や面接等から勉学意欲が感じられる受験生と、そうでない受験生との間に明瞭な差がみられた。後者については不合格とした。定員確保ありきで留学生の「底ざらい」を行わないことは県内高校教員向け説明会で明言した。参加した高校教員からもこうした姿勢を支持するコメントがあった。

(3) 入試形態別入試結果(表 12-2)

- 1) 推薦入試は定員 55 名に対し入学者は 44 名となり、前年比 5 名減となった。とくにⅠ期の併願は入学者が 0 となり、Ⅱ期は前年比 5 名減となった。
- 2) A0 入試は、定員 5 名に対し入学者は 5 名で、前年比 2 名増となった。
- 3) 一般・特別奨学生選抜・センター入試は全体で 14 名増となった。とくに一般入試は前・後期合わせて定員 27 名に対し 37 名が入学し、前年比でも 16 名増となった。普通科高校からの受験生が一般入試に集中する傾向が顕著となった。
- 4) センター利用型入試は前・中・後期合わせて定員 33 名に対し、入学者は 7 名で、前年と同数であった。
- 5) 留学生については 9 名が入学し、前年比 3 名増となった。

(4) 出身高校別入試結果(表 12-3)

- 1) 県内在住入学生は 90 名で、過去 5 年間では平成 27 年度の 104 名に次いで多かった。

表 12-3 出身高校別入学者数

地域	高校名等	H29	H28	H27	地域	高校名等	H29	H28	H27
県東部・県立	泊	2	3	1	県西部・県立	小杉	2	2	3
	入善	2	2	3		新湊	4	1	2
	桜井	2	1	1		大門	0	0	2
	新川みどり野	0	1	1		志貴野	1	0	0
	滑川	4	3	3		高岡商業	3	1	1
	上市	5	3	3		高岡西	1	1	3
	雄山	6	6	7		高岡工芸	0	0	1
	小計	21	19	19		伏木	0	1	0
富山市・県立	水橋	3	0	3		福岡	1	1	0
	富山工業	2	1	3		南砺福野	0	5	2
	富山いずみ	4	0	4		南砺福光	0	1	1
	富山	1	1	1		南砺平	1	0	0
	富山商業	3	8	10		氷見	2	1	4
	富山西	4	2	6		小計	15	14	19
	富山東	1	1	0	県内私立	新川	0	1	2
	富山北部	3	2	1		富山第一	5	4	0
	富山南	2	3	5		高朋	0	0	1
	雄峰	1	0	2		龍谷富山	0	1	1
	中央農業	2	0	0		富山国際大付	9	8	11
	呉羽	2	1	0		高岡向陵	1	1	0
	八尾	4	5	10		高岡第一	1	0	1
小計	32	24	45	高岡龍谷		1	0	0	
						小計	17	15	16
						県外	10	16	7
					単位制高校・高卒認定	4	0	2	
					留学生	9	6	8	
					計	108	94	116	

- 2) 県東部の県立高校および県内の私立高校からは、平成 27 年度以降安定的に入学生を確保している。
- 3) 富山市の県立高校からの入学者は平成 28 年度に大幅に減少したが、平成 29 年度は前年比 8 人増となった。しかし、平成 27 年度に比べるとまだ 13 人減となっている。
- 4) 県西部の県立高校からの入学者は高岡・射水地区で増加したのに対し、砺波・南砺地区で減少した。

2. 課 題

(1) 高校生・保護者の関心に合わせた募集活動の展開

- 1) 平成 28 年度以降、入学生の関心は明らかに国際化や留学に集中しつつあるので、海外研修や留学体験の大切さをアピールすることを募集活動の主軸とする必要がある。
- 2) 一方で、資格取得や専門知識の修得、公務員や特定分野への就職など、入学してから目指すことも多様化しているので、高校生・保護者の関心に合わせて柔軟な募集活動を展開する必要がある。

(2) 高校生や保護者に直接アピールの充実

- 1) 高校生・保護者向けの紙媒体を一層充実させ、すぐれた授業の内容や教員の研究等についても知ってもらおう。
- 2) 進学説明会においては、在学生の成長ぶりが高校生・保護者に伝わるような企画を充実さ

せる。

- 3) 高校生向けの現地研修会(フィールドワーク)や留学等の成果発表会等を企画し、学生の取り組みが高校生・保護者に伝わるよう工夫する。
- 4) 業者主催の進学説明会等についても、できる限り要望に応える。とくに模擬授業に関してはリクエストがあった分野の教員に行ってもらおうよう配意する。

(3) 重点校対策

- 1) 毎年入学者を送って下さる高校には、在学生の近況等を細かに伝える。
- 2) 入学者が伸び悩んでいる富山市内の高校にも、在学生の近況等を細かに伝えることで志願者増を目指す。

(4) 学生の質や意欲を考慮した合否判定

- 1) もとより勉学意欲のない学生を「底ざらい」することは教育の質の低下に結びつくため、定員確保ありきで学力が一定基準に満たない学生を合格としないよう、慎重に合否判定を行う。
- 2) 一方、学力は低くても入学意欲があり入学後に成長が期待できる学生については、A0 入試等を利用して入学してもらえそうな取り組みも必要となる。

(5) 留学生試験の合否判定の厳格化

- 1) 勉学意欲がなくアルバイトばかりしている留学生は、大学にとって百害あって一利なしであるので、厳格な合否を実施し、定員確保ありきで合格させないようにする。
- 2) 勉学意欲があり、日本での生活にもなじめる留学生に快く学生生活を送ってもらうためにも、勉学意欲がなくアルバイトばかりしている留学生との差別化を図る。

13. ホームページ・広報活動

1. 実績・現状

ここでは、入試関連の広報を除き、教員・職員による広報活動について示す。

(1) ホームページ

表 13-1 ホームページへのアクセス件数

年度	年間アクセス件数 (注)	一日平均件数	増減率
2013 年度	約 433 万件	約 11,800 件	
2014 年度	約 490 万件	約 13,400 件	約13%増
2015 年度	約 467 万件	約 12,800 件	約 5 %減
2016 年度	約 473 万件	約 13,000 件	微増

(注) 画像、PDF ファイル等を含む

表 13-2 ニュース&イベントへの投稿件数 (実数)

年度	大学計	現代社会学部	子ども育成学部	各センター
2013 年度				
2014 年度	285	95	88	102
2015 年度	235	79	75	81
2016 年度	210	75	65	70

表 13-3 ホームページの更新

年度	更新内容
2013 年度	2012 年末に大学ホームページをリニューアル 3 専攻のホームページデザインを統一化 産業界 G P のホームページを作成 各専攻の話題や注目情報・ニュースなどを追加 シラバス、教員紹介、紀要データなどを更新・追加
2014 年度	専攻別のページの更新に取り掛かった。それぞれの専攻のカリキュラム概要、就職先、先輩からのメッセージ等の内容を更新した。
2015 年度	各専攻のページ、シラバス、教員紹介、紀要データなど、経常的な更新のみ。
2016 年度	各専攻・各センターのページ、シラバス、教員紹介、紀要データなど、経常的な更新。東黒牧ニュースで、活躍する学生を随時、紹介する企画「キャンパスの星たち」を開始。ニュース欄で、英語のニュースも始めた。

・東黒牧ニュースの件数

2014 年度 : 19 件

2015 年度 : 32 件

2016 年度 : 9 件・・・方針を変更した。学生の活躍を中心とした記事に集約。

(2) 新聞

表 13-4 現代社会学部に関する記事掲載件数

年度	大学・学部・OB	学生の活動	教員の活動	計	備考
2013 年度				89	13 年 6 月～14 年 3 月 17 日。すべての新聞が対象。
2014 年度		85	36	121	14 年 3 月 17 日～15 年 3 月 19 日。すべての新聞が対象。
2015 年度	27	35	18	80	15 年 3 月 23 日～16 年 3 月 15 日。北日本新聞が対象。すべての新聞を対象にすると 118 件。
2016 年度				148	16 年 4 月 1 日～ 17 年 2 月 28 日。すべての新聞が対象。

(3) 放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）

件数については調査が不十分であるが、専門分野でのコメントや研究紹介、学生の活動などの報道が放映され、地域への情報提供につながった。

2. 課題

(1) ホームページ

学部の広報活動の推進、取り組みの総括や自己点検活動の効率化のために、広報戦略と年間スケジュールづくり、実施体制の明確化、情報整理の基本的な枠組みづくりが緊急の課題である。

また、現状のホームページサーバシステムでは、特にニュース・イベントのページの文字コードが古い規格の Shift_JIS となっており、固有名詞の旧字体・異字体などには対応できていない。システムのバージョンアップが望まれる。

東黒牧ニュースで、活躍する学生を紹介する新企画「キャンパスの星たち」を始め、取り置いて、後日、刷り出し、「紙媒体」としても広報活動に利用しようとしたものの、同ニュース欄への他の提稿が減るというジレンマを招いた。

(2) 新聞

広報戦略については同上。

(3) 放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）

広報戦略については同上。さらに、取り上げられた数、内容を把握するモニター制度が必要である。

14. 研究活動

1. 学会発表、論文発表および著書

(1) 学会発表

- 上坂博亨, 中川慎二, 谷口達也, 伊藤宗康 (2016) 低回転ボルテックス水車の効率改善と動作解析, 環境科学会 2016 年会, 東京都市大, 横浜 (8-9/Sep)
- 清水貴昭, 中川慎二, 飴谷功佑, 上坂博亨, 伊藤宗康, 佐藤弘規 (2016) 「OpenFOAM による低回転ボルテックス水車容器内の気液二相流解析」, オープン CAE シンポジウム, 東京大, 目黒 (26/Nov)
- 飴谷功佑, 清水貴昭, 中川慎二, 上坂博亨, 伊藤宗康, 佐藤弘規 (2016) 「OpenFOAM によるたらい式水車の気液混相流解析 (容器内渦流のシミュレーションと実験)」, 日本機械学会 北陸信越支部 第 46 回学生会員卒業研究発表講演会, 金沢大, 金沢 (8/Mar)
- 小林剛, グエンティイーランビン, 高橋ゆかり, 姫旭, 田小維 (2016) 有害物質の大気排出後の沈着による土壌汚染の可能性, 環境科学会, 東京都市大, 横浜 (8-9/Sep)
- 佐藤綾子 (2016) 地方自治体の経営分析における事業別評価シートの活用可能性, 日本経営分析学会第 32 回秋期大会, 国士舘大学 東京 (22/Oct)
- 高尾哲康 (2016) 学生証 IC カードを活用した授業および教育指導支援, 情報処理学会全国大会, 名古屋大学 (18/May)
- 高橋光幸 (2016) 砺波平野散村景観の保全に関する諸問題, 総合観光学会 第 30 回全国学術研究大会, 帝京大学, 東京 (2016.6)
- パブリー ボグダン (2016) ウクライナのソーシャルネットワークにおける言語選択の現状と未来, ウクライナ研究会, 神戸学院大学, (3/Dec)

(2) 論文発表

- 川本聖一, 高村秀紀, 浅野良晴, 大橋一正 他 (2017) 住宅設備における再生可能エネルギーの利活用方法検討委員会成果補報告書, 公益社団法人空気調和・衛生工学会住宅設備委員会, pp.25-35
- 佐藤綾子 (2016) 地方議会における財務報告活用の重要性—町田市議会における課別・事業別行政評価シート活用の事例—, 山浦久司編著『新しい地方公会計の理論、制度および活用実践』日本会計研究学会第 75 回大会特別委員会最終報告, pp.326-341
- 佐藤悦夫 (2017) 「メキシコ、テオティワカン遺跡<月のピラミッド>出土の土器に関する研究」, 愛知県立大学国際文化研究科, 博士論文 (論文博士)
- 佐藤悦夫 (2017) 「五箇山の観光の課題と振興～世界遺産を学びと交流の場作りに～」, 『信用金庫』, 2017 年 1 月号, pp.17-21
- 高橋光幸 (2016) 地域の中小企業が連携した観光振興のあり方, 商工金融, 第 66 巻, 第 5 号, pp.23-39
- Pavliy, B., Lewis, J. (2016) “The Use of Ukrainian and Russian on Facebook Pages of Governmental Organizations in Ukraine” 言語文化学会論集, 第 46 号, pp.47-61

(3) 著書

- 尾畑納子 (2016) 洗濯による変退色, 被服学辞典, 朝倉書店, p465-466 (分担執筆)
- 佐藤綾子 (2016) 地方議会における財務報告活用の課題, 柴健次編著『公共経営の変容と会計学の機能』同文館出版, pp.171-192 (分担執筆)
- 晴山一穂・西谷敏編 (2016) 『新基本法コンメンタール 地方公務員法』日本評論社, (後藤智分担執筆、以下の逐条解説を担当。任用の定義(15条の2)pp.72-74、任命の方法(17条)pp.77-82、採用の方法(17条の2)pp.82-83、昇任の方法(21条の3)p.91、昇任試験又は選考の実施(21条の4)pp.91-92、降任及び転任の方法(21条の5)p.93)

2. 紀要執筆状況

昨年度(27年度)は論文9編、研究ノート1編であり投稿数が減少したが、今年度は回復し論文10編、研究ノート5編が投稿された。また学生が筆頭執筆者として投稿された論文や、学生との共同研究による論文も複数編にわたっており、研究と教育が一体となって推進されていると評価できる。

<論文>

- 上坂博亨, 中川慎二, 谷口達也, 伊藤宗康: 小水力発電用の低回転ボルテックス水車における動作効率改善に関する研究, pp.1-13
- 大西一成: 実質賃金、物価にもたらされた金融政策の効果に関する一考察～低迷する消費動向の背景を探る～, pp.15-48
- 川本聖一: 北陸の住宅市場と住宅供給企業の特徴, pp.49-62
- 佐藤勝秀: 海王丸パーク周辺の活性化と富山県および射水市の観光に関する分析, pp.63-70
- 助重雄久・岩林貴文・木佐貫あすか・坂上健高・佐藤叶汰・清田春香・村恵里佳: 北海道小樽市における観光の現況と課題, pp.71-84
- 高橋光幸: 戦後における観光資源の保全と利用の歴史に関する考察, pp.85-126
- 高橋ゆかり, 李剛, 石倉卓子, 末永美雪: 保育園および幼稚園における室内外浮遊真菌の実態調査, pp.127-132
- 湯麗敏: 観光業における民宿産業の持続発展の可能性に関する考察 ―中国江南水郷の古い町ウーチンを事例に―, pp.133-140
- 中川采美, 上坂博亨, 大西一成: 地域型共同風車をもたらす収益の分配における公平性に関する一考察―デンマークにおける風力発電事業の制度設計を中心に―, pp.141-177
- Pavliy, B., Lewis, J.: Issues in Identifying the Age of Twitter Users in Ukraine, pp.179-190

<研究ノート>

- 大谷孝行: 「笑い」をテーマにした哲学の授業の展開 ～「哲学通信」を中心に～, pp.191-200
- 尾畑納子: 防災と環境教育の接点, pp.201-204
- 高尾哲康: スマートフォンアプリ作成演習の試み, pp.205-210
- 高橋哲郎: 韓国における地域コンテンツ産業育成政策―変遷と論点, pp.211-221
- 秦野るり子: 英文の観光案内における富山の紹介のされ方に関する検証, pp.223-230

3. 競争的資金等による採択研究の概要

(1) 科学研究費助成事業

<研究代表者>

- 浦山隆一：琉球の近世計画村落形成に伝統的祭祀施設と村抱護が果たした役割と意味に関する研究
- 上坂博亨：高耐塵性・低環境負荷な低回転ボルテックス水車の動作解析と設計指針の開発
- 佐藤綾子：地方議会の意思決定に有用な財務報告に関する研究
- 高橋ゆかり：子どもの室内空気汚染物質への曝露評価および健康リスク低減に向けての提案

<研究分担者>

- 浦山隆一：琉球大学・中部大学
- 佐藤悦夫：愛知県立大学
- 佐藤綾子：明治大学
- 高橋ゆかり：横浜国立大学

(2) 富山県ひとづくり財団

- 3号助成金：平成28年度上市町ふるさと町民学園・富山国際大学連携公開講座
「地域資源を活用した地域づくり ～自然と共生したまちづくりへの提案～」
- 5号助成金：「限界集落における空家発生メカニズムの分析と空家問題対策についての研究」

(3) 富山第一銀行奨学財団

- 佐藤悦夫：北陸新幹線開業後の富山県の観光と現状と課題に関する研究
- 才田春夫：狩猟採集から定住移行期における経済的自立支援ータイ・ムラブリ族を対象としてー
- 高橋哲郎：実践型人材育成教育に関する研究ー海外インターンシッププログラムの開発ー
- 大西一成：地域交流センター「地域社会の活性化と発展に向けた調査・研究」

4. 評価と課題

- ・ 紀要執筆に関しては論文、研究ノートの執筆数が27年度はそれぞれ9件と1件であったのに対して、28年度は10件と5件に増加した。特に28年度は執筆数の増加と並行して質向上を図るべく、26年度に開始した試読プロセスを本格化し、ソフトウェアによる剽窃行為のチェックと試読者による記述内容へのコメント作成を実施した。これによって研究品質の内部向上を目指した。また、本学で研究していた佐藤悦夫教授が愛知県立大学において、論文博士(国際文化学)を取得し、博士号取得者が1名増加した。
- ・ その一方で、学会発表は昨年度の14件から大きく減少し8件に留まった。また発表論文数、著書数も昨年度はそれぞれ8件、4件であったが28年度は6件、3件に留まった。科研費採択件数についても、本学部の28年度新規採択はゼロ件であり27年度から継続している4件が実質的に動いている研究課題である。以上の様に、対外的な学会発表や学術雑誌への投稿が低調になっていることは、研究推進に関するエフォートが低下せざるを得ない状況になっている可能性もあり、原因究明と研究推進への一層の努力が求められる。

15. 文部科学省平成 28 年度認定事業「地(知)の拠点大学」

1. 平成 28 年度取組事業

平成 27 年度に文部科学省に認定を受けた「地(知)の拠点大学」事業は、平成 28 年度が 2 年目に当たるが、次の事業を実施した。

(1) 地域志向科目の充実強化

1) 地元就職率の高水準維持と定着率向上を目指すと共に、課題解決型人材を養成するために、現代社会学部、子ども育成学部において地域のことを知り理解するための科目を充実強化した。

2) 副専攻プログラムの検討

「とやま地域創生人材プログラム」のカリキュラム体系を国際化の進展や課題解決型人材の養成の観点から見直しを行い新たに「副専攻プログラム」として再構築・創設して、平成 29 年度から全学的に取り組むこととなった。

(2) 能力特性評価テストの改善

平成 27 年度において、課題解決型人材が持つ能力特性を「問題発見力」「課題設定力」「コミュニケーション力」「協働力」「遂行力」の 5 特性と定義をして、各特性を 10 項目で測定できる心理検査尺度を作成した。これを更にブラッシュアップするために、平成 28 年度では心理検査の信頼性、妥当性、実用性の観点から検討を試みた。

(3) 地元就職率及び定着率向上のための支援事業

1) 「第 2 回保護者向け就職支援セミナー」の開催

保護者の皆様に最近の就職戦線をよく理解して頂くために、平成 29 年 1 月 28 日に、就職活動を間近に控えた 3 年生の保護者を対象に「第 2 回保護者向け就職支援セミナー」を開催した。

2) 「第 2 回保護者の就職意識調査」の実施

就職を間近に控えた 3 年生の保護者がご子息・ご子女の就職活動にどのような就職意識を持っているか把握するためにアンケートを実施した。

3) 「平成 28 年度採用企業の採用意識・採用行動調査」の実施

平成 28 年 3 月卒業の学生を採用して頂いた企業を対象に、本学学生の評価なども含めてアンケートを実施した。

4) 新たなインターンシップの試み

インターンシップの効果を高めると共に、学生のニーズや目的に応じたインターンシップを開拓するためのひとつの試みとして、「新たなインターンシップ」開発を試みた。

具体的には、平成 29 年 1 月 20 日、富山大学、富山県立大学との共催で、①中長期インターンシップ、②課題解決型インターンシップ、③文理融合型インターンシップの 3 タイプの「新たなインターンシップ報告会」を開催した。

5) 「企業・事業所・大学講演会」(平成 28 年 11 月 18 日)の開催

内容は 1 部「基調講演」、2 部「企業・団体・関係機関と本学教職員との懇親会」の 2 部構成で、約 140 名の参加。

(4) 大学における地域連携活動

- 1) 地域の問題点や課題により深く長期に亘って取り組むために、平成 28 年 11 月 18 日に、高岡市と包括連携協定を締結(富山短期大学も同様)。
- 2) 南砺サテライト開設記念フォーラムの開催
平成 27 年 10 月に、包括連携協定を締結した南砺市(富山短期大学も同様)と、平成 29 年 1 月 21 日、地域包括ケアセンター「富山国際大学南砺サテライトオフィス」の開設を記念してフォーラムを開催した。

(5) 学生の地域参加型活動

1) 現代社会学部

- ①富山県上市町の移住定住・交流推進ワークショップ(3回)に4名の学生が参加。
- ②富山県射水市の「平成 28 年度学生による政策提案事業＝テーマ「選ばれるまち 快適安心 居住都市いみず」に本学学生が3件応募、うち1件が書類審査通過、審査会にてプレゼンテーションを行った。
- ③コンソーシアム富山・学生による地域フィールドワーク研究助成事業成果発表会に参加。
研究テーマ「富山市中心市街地における求心力のある回遊性の仕組みづくりについて」
- ④地域課題を取り上げた卒業論文数(84件中42件(50.0%))。

2) 子ども育成学部

- ①1年次・必須科目「地域参加活動」の配置。全学生が2～9箇所の現場でボランティア活動に参加。子ども育成の現状と課題について学ぶ。
- ②地域課題を取り上げた卒業論文(89件中17件(19.1%))。
- ③学生サークル・MULが地域および地域の住民と活発な協働活動を展開。

(6) 「平成 28 年度富山国際大学地方創生フォーラム」の開催

平成 29 年 2 月 20 日、「とやま地域創生人材育成プログラム」成果の一端を発表するものとして、富山市 TOYAMA キラリ第一銀行ホールにて「平成 28 年度富山国際大学地方創生フォーラムー課題解決型人材育成と地域連携で実現する地方創生ー」を開催した。

(7) 平成 28 年度富山国際大学外部評価委員会の開催(平成 29 年 3 月 22 日)

「地(知)の拠点大学」における平成 28 年度取組事業の実効性や妥当性等について、有識者を中心とする「富山国際大学外部評価委員会」で審議を頂いた結果、承認を得られた。

(8) 平成 28 年度地(知)の拠点大学事業報告書の作成

上記の(1)から(7)の事業から構成される内容を取り纏め、報告書として作成した。

2. 今後の課題

平成 28 年度事業の結果、次の2点が今後の課題として指摘された。

- (1) 学生が地域の諸問題に挑戦をして提案を行っていくには、現状の単発的・短期間の取組みでは一定の成果を出すのは非常に難しいことが分かった。今後、学生が継続性を前提に地域の諸問題に取り組むにはどのような実施体制や実施方法が考えられるか検討する必要がある。

ある。

- (2) 現状のインターンシップは「職場体験型」が中心であるが、職能の高度化や学生の就職ニーズの多様化に対応できるように、今後は、中長期インターンシップとか、課題解決型インターンシップ、文理融合型インターンシップ等についても検討を重ねて、インターンシップの多様化を図っていく必要がある。

16. 後援会・保護者対応

1. 実績と現状

(1) 後援会理事会・後援会総会

後援会総会への申込者数は2015年度に特に減少したが、2016年度は前年度に比べ倍増した。
大学の取組みに対して保護者がより高い関心をもった結果と考えられる。

表 16-1 理事会・総会の実施内容

年度	理事会	総会
2014 年度	平成 26 年 5 月 24 日（土）10：30 東黒牧キャンパス大会議室 出席者数（理事）19 名	平成 26 年 6 月 21 日（土）14：30 オークス・カナルパーク・ホテル 申込者数 71 名
2015 年度	平成 27 年 6 月 27 日（土） オークス・カナルパーク・ホテル 出席者数（理事）20 名	平成 27 年 6 月 27 日（土） オークス・カナルパーク・ホテル 申込者数 42 名
2016 年度	平成 28 年 6 月 25 日（土） ホテルグランテラス富山 出席者数（理事）18 名	平成 28 年 6 月 25 日（土） ホテルグランテラス富山 申込者数 84 名

(2) 保護者懇談会

保護者懇談会への申込者数は前期・後期ともに 40 名前後で推移している。2016 年度は大学祭時の懇談会に多くの申込者があった。大学祭という行事に対しても、保護者の関心が向けられた面があるのではないと思う。

表 16-2 実施内容

年度	前期	後期
2012 年度	申込者数 32 名	申込者数 43 名
2013 年度	申込者数 40 名	申込者数 37 名
2014 年度	後援会総会時（6 月 21 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 36 名	大学祭時（10 月 25 日・26 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 34 名
2015 年度	後援会総会時（6 月 27 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 49 名	大学祭時（10 月 24 日・25 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 39 名
2016 年度	後援会総会時（6 月 25 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 36 名	大学祭時（10 月 29 日・30 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 51 名

(3) 同窓会

2014 年度まで毎年 15 名程度の卒業生の出席であったが、2015 年度、2016 年度は 22 名に増加した。これは、卒業生の間での「声かけ」が奏功したものと考えられる。

表 16-3 実施内容

年度	内容
2014 年度	平成 26 年 8 月 2 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 20 回総会および懇親会 出席者数 計 45 名 卒業生 15 名（人文 2、地域 1、現代社会 6、子ども育成 6）、 教育職員 20 名（学長、現代社会 9、子ども育成 10）、事務職員 5 名 同窓会役員 5 名
2015 年度	平成 27 年 8 月 8 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 21 回総会および懇親会 出席者数 計 42 名 卒業生 22 名（人文 11、人文社会 1、地域 4、現代社会 5、子ども育成 1） 教育職員 14 名（学長、現代社会 7、子ども育成 5）、事務職員 1 名 同窓会役員 5 名
2016 年度	平成 28 年 8 月 27 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 22 回総会および懇親会 出席者数 計 40 名 卒業生 22 名（人文 7、人文社会 3、地域 3、現代社会 5、子ども育成 2、 不明 1） 教育職員 11 名（学長、現代社会 5、子ども育成 5）、事務職員 2 名 同窓会役員 5 名

2. 課題

(1) 参加保護者数の増加

後援会総会や保護者懇談会に参加する保護者数を増やし、教職員と保護者との対話・連携を強化する。特に大学生活に何らかの困難を感じている学生の保護者との情報共有を図る。

(2) 休退学指導記録

引き続き、担当ゼミ学生の休学や退学に関連した指導記録を学内共有フォルダ内に保存し、今後の指導に役立てる。

(3) 同窓会出席者の増加

同窓会への卒業生の出席増加を図るために、開催案内の内容に出席教員名などを記載して、出席してみたいという情報を盛り込む。

17. 富山国際大学現代社会学部アクションプラン（2014-2016）

1. 現代社会学部の取り組み（2014－2016 年度）

現代社会学部では、2014 年度以降 2016 年度まで、「富山国際大学アクションプラン 2014-2016」の策定により学部運営の行動指針として取り組んできた。その内容は以下のとおりである。

5 つの行動指針にもとづくアクションプランと具体的項目を実施することにより、地域社会や高等学校で信頼され、学生および教職員の満足度の高い現代社会学部の構築を目指してきた。そして、そのような取り組みの結果として学生定員の安定的充足を実現し、健全な大学経営を図ることを目標としてきた。

「富山国際大学アクションプラン 2014-2016」における 5 つの指針

指針 1 学生の成長を保証する教育の実践

- (1) 建学の精神、大学の基本理念を堅持し、人間性・専門性・社会性を向上させます。
- (2) 学生の主体的学習を増進する授業改革や個別指導・学習支援を行います。

指針 2 国際性に富み、地域発展に貢献できる人材育成と知の創造・活用

- (1) 「富山から海外へ」「海外から富山へ」、活発な学生交流や学術交流をはじめ、グローバルな教育・研究を推進します。
- (2) 地域との連携・協働を促進し、「地域に役立ち、地域に学ぶ」教育・研究や事業を推進します。

指針 3 活気が溢れ、個性を伸ばせる学生生活への支援とキャリア形成

- (1) 快適なキャンパス環境を整備し、充実した学生生活を支援します。
- (2) 「なりたい自分」になれるよう、キャリア支援・就職支援を行います。

指針 4 ブランディングと情報発信の強化と多様な学生受入れの推進

- (1) 大学のブランディングを強化し、積極的な情報発信と広報活動を展開します。
- (2) 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に沿って、幅広く、意欲のある学生の受入を促進します。

指針 5 教育力・研究力の向上と健全な大学運営

- (1) 教職員の職能向上を図り、教育力・研究力と教学組織の強化を推進する。
- (2) 大学マネジメント体制を強化し、健全で機能的な大学運営に努めます。

2. 現状と課題

入学者は発足時の平成 20 年度および 22 年度を除き、定員 120 名に対して平均 87% の充足状況であった。特に北陸新幹線開業の影響が大きかった 28 年度は 78.3% と学部開設以来最も低い結果であった。合格者に対する入学者の割合は、20 年度が最も高い 70.6% であったが、その後低下し、28 年度は最も低い 49.7% になったが、29 年度入学生において若干回復した。

以下、各指標に対する現状と課題について記載する。

(1) 指針 1 学生の成長を保証する教育の実践

学生の成長を保証する教育実践は、シラバスの充実、能動的教育の実践、学生への個別指導の実践などに見られるように、着実に前進している。

しかし、基礎学力不足の学生へのリメディアル教育等の実施、学生の自主学習支援体制の強化

など、さらにきめ細かい教育の実施は十分に進んでいない。

このような課題を実施するためには、外部の専門家との協力による実施体制の整備、本学教職員の業務の整理・軽減・効率化など、解決すべき課題が多い。

(2) 指針 2 国際性に富み、地域発展に貢献できる人材育成と知の創造・活用

学生の留学体験の推進、海外大学等との提携の拡大、外国人留学生の受け入れ拡大、地域をフィールドにした教育実践、市民向け公開講座の実施など、さまざまな取り組みが着実に前進している。

しかし、海外留学者数や海外体験者数という数的目標、海外及び国内の提携校との学生交流や教員交流、県内経済団体との連携した取り組み、地域との研究交流等の面では不十分な状況である。

海外留学者数や海外体験者数を増やすための取り組みの検討は重要な課題であるが、同時に、小規模大学である現状を踏まえ、本学部としての精査が必要である。

(3) 指針 3 活気が溢れ、個性を伸ばせる学生生活への支援とキャリア形成

快適なキャンパス環境を整備し、充実した学生生活を支援するための取り組みは、学生の意見を取り入れ、学生との共同の取り組みを進めるなど、着実に進展している。キャリア支援・就職支援の取り組みについても、就職率 100%に示されるように、着実に進展している。

しかし、強化クラブの選択と集中については、その必要性にもかかわらず遅々としている。また、不適応学生支援が全国的な課題になっている中で、本学部でも体制の強化と必要な情報の共有を図ることが重要である。卒業生とのつながりの構築と活用については、学部のブランディングのためにも重要であるが、他部門との連携が特に必要であり今後の課題である。

(4) 指針 4 ブランディングと情報発信の強化と多様な学生受入れの推進

大学のブランディングを強化し、積極的な情報発信と広報活動を展開することは、入学者受入れ方針に沿って、幅広く、意欲のある学生の受入れを促進する。自校教育を 2016 年は導入したが、今後も継続していくことが大切である。

(5) 指針 5 教育力・研究力の向上と健全な大学運営

教職員が協力し合い、教育活動の改善、地域貢献活動の推進などを進めているにもかかわらず、「教職員の職能向上を図り、教育力・研究力と教学組織の強化を推進する」ことは十分な成果を収めているとは言い難い面がある。地域社会・高校側に評価を得るような努力がさらに必要であろう。また、教員の研究力強化と研究環境の改善については、研究を行う教員とそうでない教員がいるという現実を踏まえ、研究環境の体制を検討することが今後の課題である。

以上、地域社会や高等学校から信頼され、学生が満足する学部をつくるために、教職員が協力しながら鋭意取り組みを進めてきた。その結果、多くの成果を達成してきているが、それ以上に深刻な問題の解決が課題として残されている。

本学部は、収容定員 490 名という小規模大学である。小規模大学であることによって、学生と

教職員の距離が近く、きめ細かい指導をすることができる、ということを高校の生徒や保護者に訴えてきたが、まだ十分とは言えない面がある。

本学部の実存意義を示すためには、他の大学との違いや特色を明確にし、自分たちがターゲットとする高校生に向けて、継続的に学部の特色、「売り」を伝えていくことが必要である。

表 17-1 現代社会学部 定員充足率等の推移

(単位：人、%)

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
定員数	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120
志願者数	215	187	207	169	172	158	196	215	201	
受験者数①	214	186	204	165	171	156	195	215	198	
合格者数②	187	158	181	153	162	149	192	209	189	
入学者数③	132	119	136	104	105	98	110	116	94	
定員充足率	110.0	99.2	113.3	86.7	87.5	81.7	91.7	96.7	78.3	
②／①	87.4	84.9	88.7	92.7	94.7	95.5	98.5	97.2	95.5	
③／②	70.6	75.3	75.1	68.0	64.8	65.8	57.3	55.5	49.7	